

弄玉集

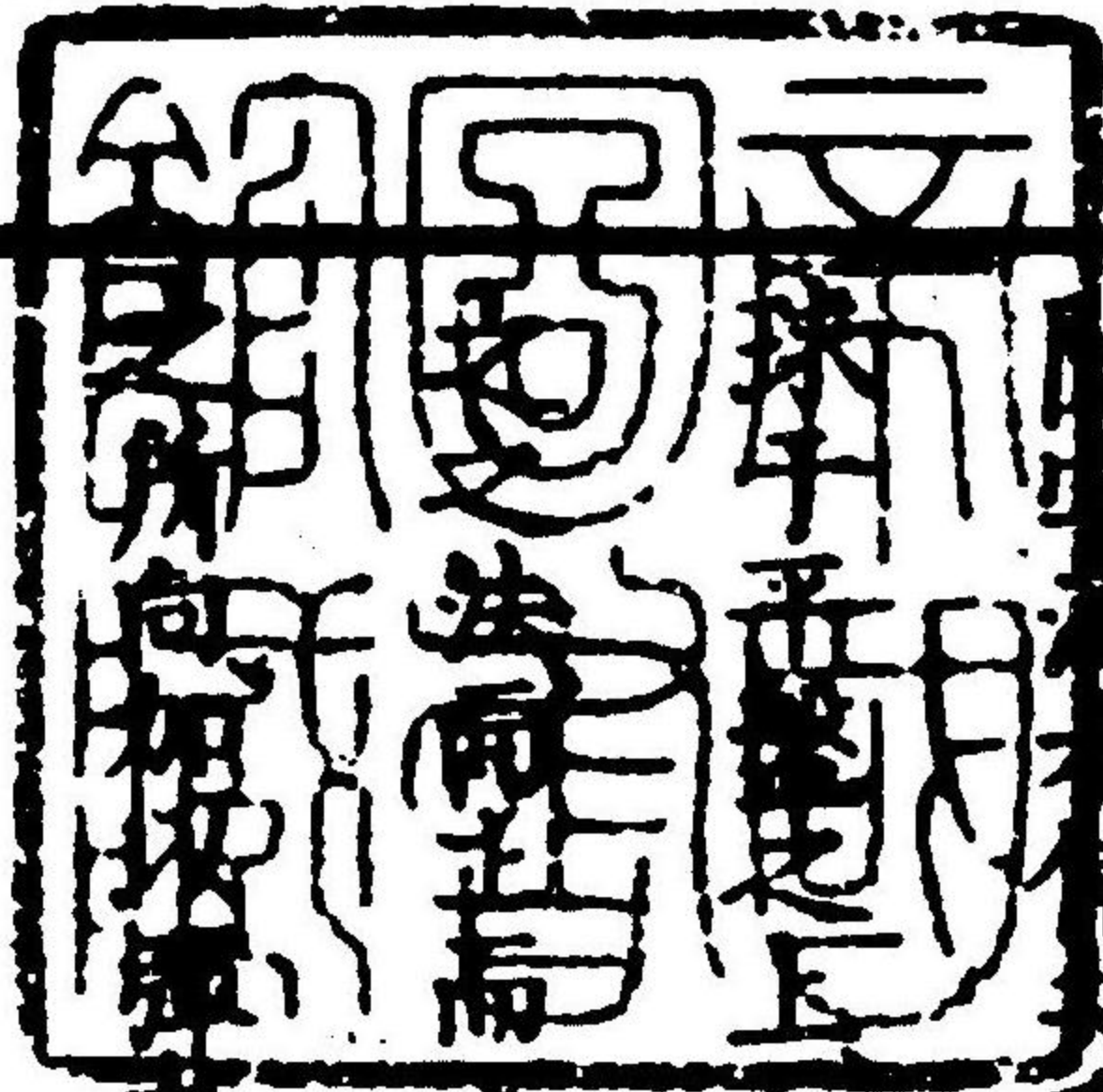
全

圖書集成				
一	九	六	號	一
冊	號	架	函	類

弄玉集序

西人之評滾球戲者曰算數之理測量之術可由此以知一隅予初不甚信及閱宇津木信夫氏所著弄玉集始知其所包者宏大深遠為不可忽已夫置圓球于平盤之上而以一挺彈之中球心則轉而前進固理之易見者耳而其彈之之法而上而下而左而右彼球旋回轉輾之狀或弧鉤或直弦或左右前後之所向加以彈力之剛柔緩急倏忽變化有若不可端倪而靜察之則皆有成跡着々可尋繹而得之孫子曰戰人之勢如轉圓石於千仞之山者勢也是兵之一者耳而一詭一正一靜一動為虛為實為形為體變化之秘殆不可測蓋運用之妙存于一心矣予心一國亂不遑刻意讀書唯從一二先輩逐于戎

弄玉集序



西人之評滾球戲者曰其數之理測量之術可由此以知一隅予初不甚信及聞字津木信夫氏所著弄玉集始知其所包者宏大深遠為不可忽已夫置圓球于平盤之上而以一挺彈之中球心則轉而前進固理之易見者耳而其彈之所向如以彈力之剛柔緩急倏忽變化有若不可端倪而靜察之則皆有成跡者々可尋繹而得之孫子曰戰人之勢如轉圓石於千仞之山者勢也是兵之一者耳而一詭一正一靜一動為虛為實為形為體變化之秘殆不可測蓋運用之妙存乎一心矣予少不圖亂不遺刻意讀書唯從一二先輩取法于戎

馬間竄謂於用兵之策略竄一珽今微諸滾球戲殆有所得夫彈毬心而直進者兵之實而勢之行者也彈兩偏而為鉤弧左右之旋轉者兵之詭而算之多者也彈上伴敵毬而進下觸他毬而退者則兵之奇正相生如環無端者也雖然是惟就一二易觀者而言耳若夫極其詳細探其蘊奧則至微之理化為至神之用亦未可知也先聖有言曰能近取譬可謂仁之方也已其是之謂乎西人有取于算數與測量于則觀于兵理所觀雖異而有會於心則無不同遂記以為序

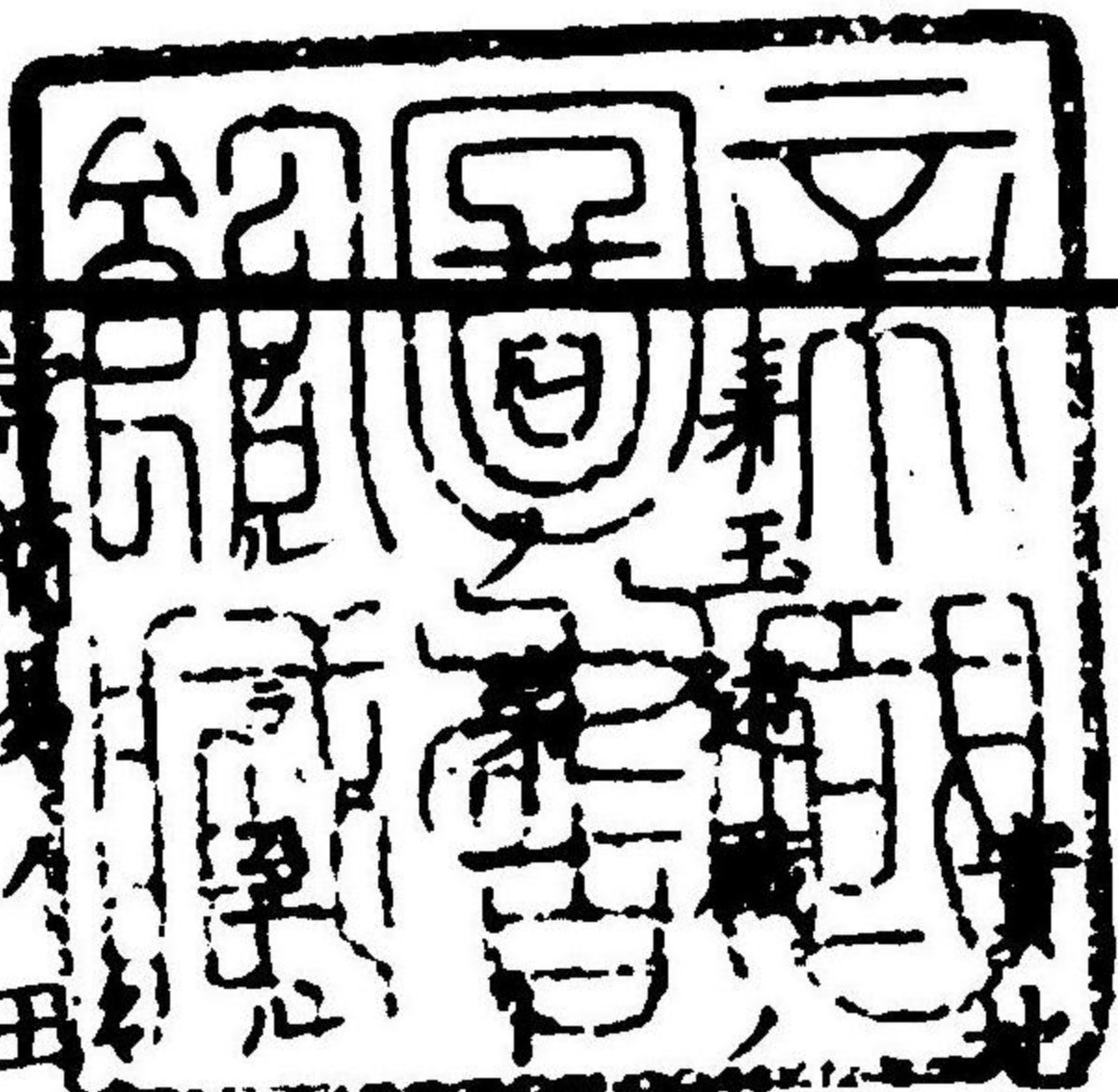
明治十二年八月

吉田次郎撰

弄玉集

第一編

宇津木信夫 譯



一則ルヘキ弄玉遊戯ノ大意
技術ハ實地ノ經驗ニ由テ專ラ手練自得ス
スヘシ之レ學問上ノ理論ハ何程精且ツ巧
トモ初メテ之ヲ實物ニ試ムルハ至極尋
常簡易ハ五位ニテモ其初手ヨリ十分ノ成功ヲ得ル程
ノ益ハ與ヘ得ヘキニ非サレハナリ去レ氏此弄玉遊戯
ニ志アルモノハ先ツ理論ノ大義ヲ悟リ其普通ノ方法
ヲ暗シ然ル後ヲ實物ニ就テ手業ヲ練磨スルハ八月日

ヲ浪費スルヲ甚妙シテ忽チ精巧ナル弄玉者トナル
更ニ疑フベカラズ故ニ理論ヨリ實物ニ及ホス者ノ一
月間ノ進歩ハ克ク實物ノ經驗ヨリ漸ク理論ヲ悟ル者
ノ一年間ノ上達ニ優ル程ノ宏大ナル利益ヲ得ヘシ又
弄玉ノ教師ト為スヘキ遊友ヲ得ルキハカノテ之レニ
從テ學フヘシ之レ此ノ遊戲ニ限ラス苟モ技術ニ屬ス
ルトハ都テ教師ニ就カサルヲ得ス此遊戲ノ如キモ良
師ヲ得テ學フキハ初メテ棒ヲ持ツモノト雖モ僅ニ一
月間ノ修業ヲ以テ中等ノ弄玉家トナリ又中等ノ弄玉
家ハ更ニ一月間ノ修業ヲ以テ十分精巧ナル弄玉家ト
ナリ忽チ教師ノ地位ヲ占ムヘキ程ノ精妙ヲ極ムルニ

至ルマシ

善良優美ナル姿勢ノ要

弄玉ノ遊戲ヲ行ハント欲スルモノ、最第一ニ學フヘ
キハ先其姿勢ノ善良優美ヲ得ルニアリ而シテ球位ニ
應ジテ突クヘキ力ノ強弱高低及ヒ形状ヲ異ニスルヲ
以テ弄玉臺ヲ距ルト何寸杯ト定固セル細密ノ説明ヲ
為ストハ能ハサル所ナリ故ニ初學者ノ則ルヘキ一般
普通ノ姿勢ヲ解演スマシ

備弄玉遊戲ヲ行フニ際シテハ先ツ左足ヲ少シク前ニ
進ノ左手ヲ開キ其掌ヲ臺上ニ平着シ四指ノ根節ヲ屈
シ弓形ニナシ而シテ上體ハ正直ニ臺ニ對セスシテ少

シク斜メニ向クヘシ故ニ臺ノ側面ト己レノ正面ト恰
モ銳角ヲ為スヲ要ス且身體ハ須ク緩優ニシテ堅強ナ
ラサルヲ要ス若シ身體堅剛ナルハ外見雅ナラサル
ノミナラス弄玉上大ナル障害ヲ為スナリ又棒ハ宜シ
ク弛ルク持ツベシ尺球ニ觸ル、時ノミ少シク固持ス
ルヲ要スルヲアリ然シテ飛ヒ突チ及ヒカラ突チヲ除
クノ外ハ常ニ水平ニ保持スベシ且衝突ノ運動力ハ腕
及ヒ其下部ノミヲ限り他ノ局部ニ運動ヲ起サ、ルヲ
要スベシ
球ヲ衝遣スル片肩ニテ突キ或ハ棒ニ從テ自体ヲ前ニ
投出スル等ノ人ハ拳闘遊戲ノ名人ト為ルニハ適當ス

ヘシト雖モ精察ナル打衝及ヒ眼光身體ノ二者ノ須ク
腕確ヲ要スヘキ遊戯ニ在テハ最モ拙劣ニシテ甚不適
當ナリ是ヲ以テ臺ニ向フ以上ハ運動スル局部ハ只手
腕ノミニシテ体ハ動かサルヲ恰モ岩石ト一般ナル
ヲ要ス如何トナレハ何ニ程身體ニ力ヲ込メタリト之
レニ因テ球ノ運動ニ勢力ヲ附スルヲ得ヘカラズ當ニ
勢力ヲ附シ得サルノミナラズ却テ之レヲ減損スヘキ
ナリ故ニ球ノ運轉ニ附スル力ト云フモノハ所謂腕力
者流ノカトハ大ニ異リ茲ニカト稱スルハ即チ突キ出
ス棒ノ速カト其重量ト相乘シテ生スル所ノモノナリ
前ニ已ニ云ヘル如ク球ヲ衝突スル為メニ為ス所ノ運

動ハ單ニ前腕ノミニ限リテ決レテ他ノ局部ヲ動カス
ヲ要セサルモノト知ルヘレ今編者カ説明セント欲ス
ル所ノ事項ヲ漏サス記載セントセハ繁雜ニ涉リテ却
テ解シ難キニ至ルヘケレハ專ヲ要ヲ摘テ以テ明解セ
シ即チ球ヲ衝突スレノ法ハ「野馬ヲ捕フル為
ニ用ユル扱ケ」
輪ノ附セテ投スル如キ腕首ノ迅速ナル動力ヲ棒ニ傳
ヘ以テ衝突セハ恰々著述者カ企望スル所ヲ十分精密
ニ會得セリトスベレ

腕力ニ乏シク身体筋骨ノ柔弱ナル人ニシテ弄玉ノ遊
戯ニ於テハ精妙ナル「有名ナル弄
玉ノ名人」氏高名ナル力者曾テ教
ラズ球丸ノ勢カアル「ハサムソシ」

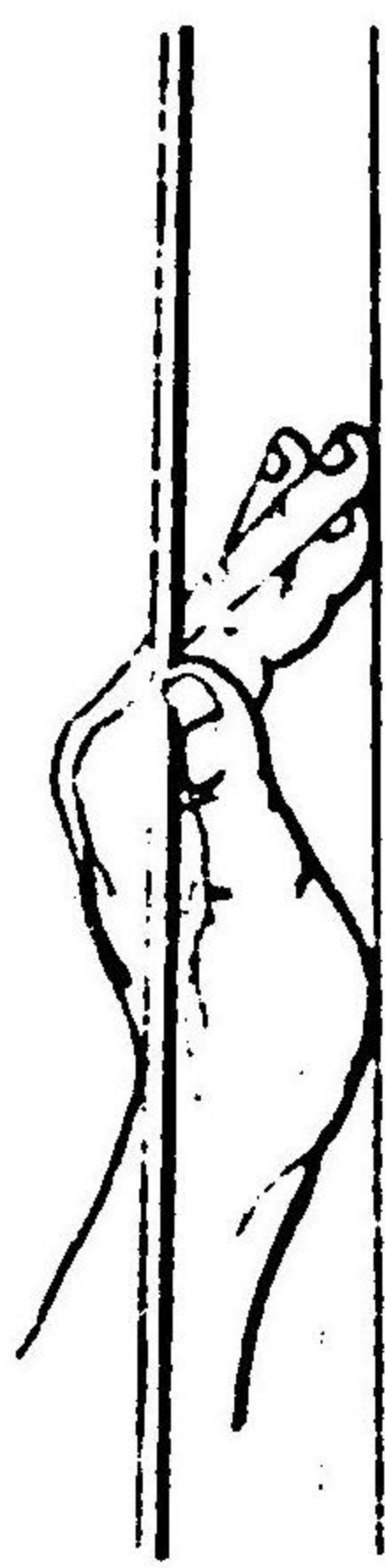
會ニ於テ堂殿ノ巨柱ヲ外教徒ノ頭上ニ引キ倒シタル
勢力ニ彷彿タルモノ間々現出スルハ他ナラス只此速
カノ秘決ヲ解得セシモノナルノミ
婦女子ハ弄玉ノ遊戯ヲ為スニ男子ト異ナリテ「ノース」
ト稱スル棒ヲ使用スルカ故ニ其姿勢モ亦簡易ニシテ
左手ヲ出シテ棒ノ受ケ臺ヲ作ルニ及ハス故ニ上体ヲ
前ニ屈スルノ勞アラス
借婦女子ノ使用スル所ノ此「ノース」ト稱スル棒ハ母指
ト第一指トヲ以テ之レヲツマミ保チ其端末ヨリ先端
ニ通シテ注目シ以テ照準線トナシ精密ノ照準ヲナス
ニ便スレ然レテ照準定テ後チハ棒ノ運動ヲ連レテ

共ニ動搖セシテ防ク為ノニ之レヲ臺上ニ安置シ弟
一指ヲ以テ上ヨリ穩カニ壓定スヘシ而シテ此ノ一
ト稱スル棒ヲ用ユルモ「キユウ」尋常ノ玉突キ棒ナリ書
中單ニ棒ト云ス以下之
レニ以テスルト同シク衝突ノ力ハ腕力ニアラスレ
テ全ク腕首運動ノ速力ナレテ記スヘシ
婦女子ノ此遊戯ヲ行フニ就テ其姿勢ハ更ラニ細説ヲ
要セサルヘシ如何トナレハ元來婦女子ハ常ニ容姿ヲ
修飾スルニ巧ミニシテ常ニ之レニ注意スルヲ以テ
珠更ニ解説セサレバ自ラ十分風雅ナル容姿ヲ修飾シ
得ヘケレハナリ
諸男子ノ初志者ニ忠告セン凡ソ弄玉ノ遊戯ニ臨ンテ

ハ服裝其他身体ノ虚飾ヲ廢スヘシ如何トナレハ之レ
カ為ノニ体ノ運動ヲ妨害シ究屈ニシテ十分ノ精巧ヲ
遂クル能ハス又何程ニ美麗ニシテ立派ナル裝飾ヲ為
ス凡遊戯ノ巧拙ハ風雅ニ清優ナルト無骨ニ雅殺ナル
トニ因テ一目ニ判然スヘキヲ以テ修飾ノ得テ其拙劣
ヲ覆フヘキニマラサレハナリ
昔時「バガレニ」ト稱スル鼓子ノ名人アリ此人其子弟
ニ教授スルハ其持子方ヲ教ユル為ノニ六ヶ月ヲ費シ
未タ其音調ヲ授ケス而シテ其取扱及ヒ持子方ヲ十分
解得シタル後ナハ僅カニ二三週間ヲ以テ鼓子ノ技ヲ
盡ク教授シ其秘決ヲ盡シテ傳授スルヲ得タリト云フ

此弄玉ノ遊戯ニ於テモ亦之ニ異ナラズ只前ノ如ク六
 ケ月程ノ長キヲ要スルニ及ハスト雖氏棒ノ持チ方并
 腕首ノ運動身体ノ姿勢ヲ練磨スルハ夫ノ「バガンニ」氏
 カ鼓子ノ持チ方ヲ解得スルヲ肝要トセシト一般ナリ
 持ニ弄玉ヲ為サント欲スルハ前ニモ已ニ演ヘタル
 如ク左足ヲ少シク前ニ直進シ右足ヲ外ニ向テ左足
 ノ後方ニ少シク離シテ踏ミ身体ハ正シク兩足上ニ安
 置シ左腕ヲ伸シテ其手首ヲ臺上ニ置キ掌ヲ以テ之ヲ
 壓シ四指ノ根節ヲ聊カ屈シ方形ヲ作ル左圍ノ如ク
 スヘシ而ノ打衝スヘキ球ノ距ル一九ソ六^イ寸^ハ我^ハ四寸^ハ程
 リナニシテ母指ヲ第一指ノ傍ニ附着シ此二指ノ間ニ四

所ノ備ヘ其中ニ棒ヲ置クヘシ而ノ四指ノ尖先ハ適宜
 ニ盤面ヲ壓シ以テ手首ヲ固定ナラシムヘシ此如スル
 片ハ棒尖動揺スルナク從順安穩ニ衝突為シ得ヘシ
 棒ヲ保持スル所ノ右腕ハ少シク肘ヲ屈曲シ鈍角ヲ為
 スヘシ且肘ハ十分ニ体ヲ離シ其屈伸進退ノ運動ヲ自
 在ナラシムヘシ又衝突ノ際臺ヲ摩軋スルヲ防ク
 ニ注意スヘシ棒ハ適宜ニ固持スヘシト雖モ決シテ力
 握スヘカラス又適宜ニ左手ノ上ニ壓定シ特ニ力突隨
 行突廻轉突ヲ為スニ際シ其定坐ヲ轉動セシメサル



ニ注意スヘシ右ニ揭示セル三ノ衝突法ハ後ニ漸次ニ
解説スヘシ看官ハ此ニ揭示セル圖ヲ熟視シテ前ニ演
ヘクル如ク姿勢ヲ正フセハ愈本編中ノ衝突法ヲ容易
ニ會得スヘシト信ス

棒ノ尖端ハ餘リ球ニ近クヘカラス其衝突法ニ因テ一
インチ乃至二インチヲ下ルヘカラス
棒ハ成ルヘク各自ノ体カニ相當スヘキ重量ノモノヲ
撰ミ且常ニ同一ナル重量ノ棒ヲ用ヒ一定ノ慣習ヲ得
ルヲ要ス又常ニ同シ弄玉室ニノミ行クモノハ特ニ自
用ノ棒ヲ作りテ備ヘ置クハ最モ至便ナルヘシ
棒ノ重量ハ通常十五オンス乃至十六オンスヲ適宜ト

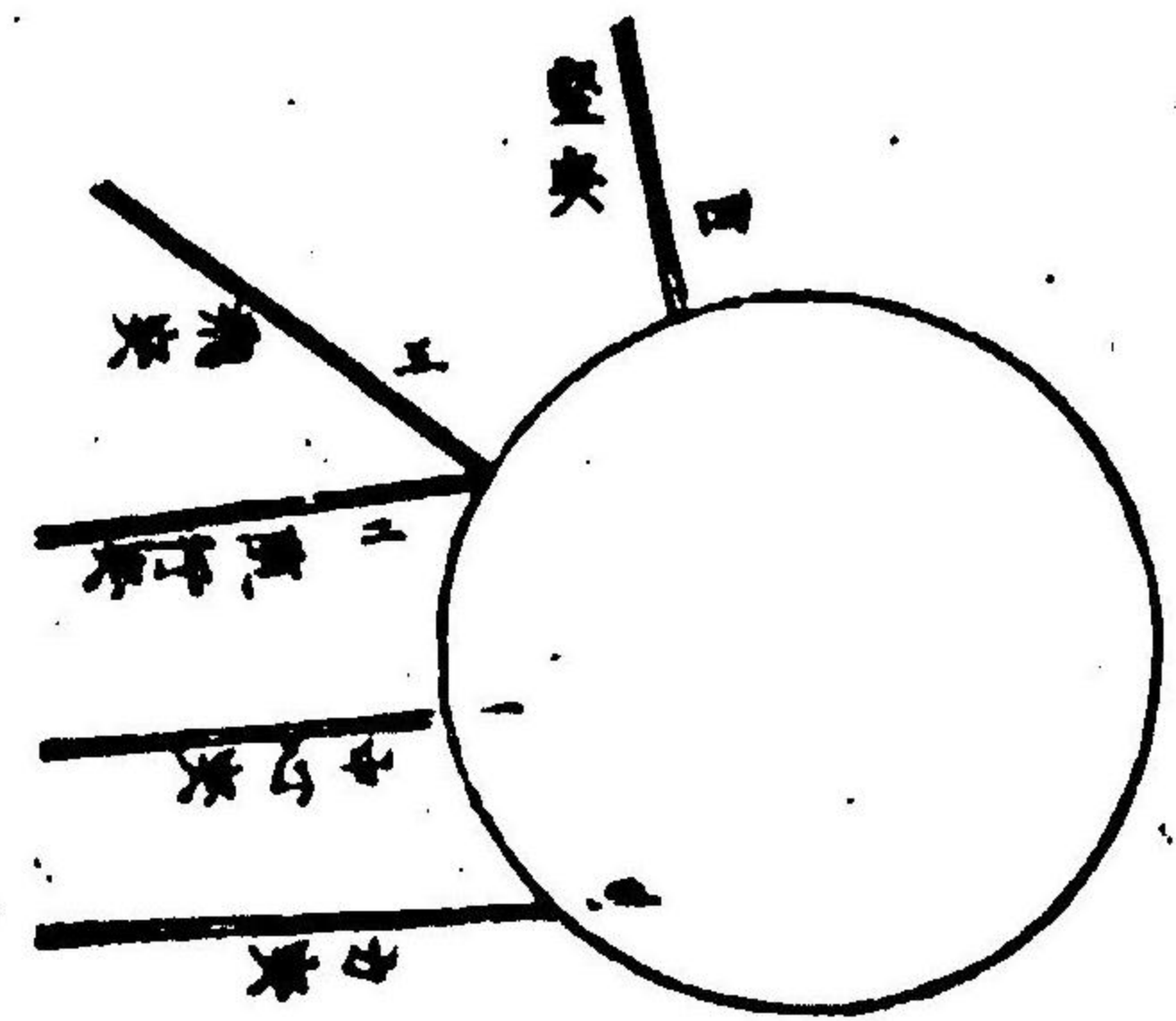
スヘシ若シ重キニ過クルハ手腕ノ勞多クシテ衝突
力ノ強弱ヲ定メ難ク又輕キニ失スルハ腕首ノ力ヲ
要スヘキヲ以テ間々照準ヲ害スルヲアリ
棒ハ須ク真直ナルヘシ何トナレハ之レニ因テ豫メ照
準ヲ為スヘキモノナレハ衝突ノ際其方向ヲ誤ルノミ
ニアラサレハナリ好事家ハ金銀珠玉ヲ鐫刺シタル華
美ナルモノヲ用ユルアリト雖モ其光彩耀々タルモノ
ハ實用ニ於テハ却照準ヲ不便ナラシムルヲ以テ單ニ
勝利ノ記念表ノミトス事ヲ實用ニ適スルモノヲ欲セ
ハ榛樹ノ棒ヲ生皮ノ儘ニテ用ユルモ十分ノ用ヲ為ス
ヘシ

棒ノ尖端ニ附粘スル獸皮ハ最必要ノモノタリ之レヲ
闕ケハカ突隨行突及ヒ廻轉突等ノ手業ヲ為スル能ハ
ス而シテ其革質ハ織緯ノ最モ緻密ニシテ柔軟且ナル
ヘク彈力ヲ有スルモノヲ可トス然シテ厚サハ九リ一
^一インチ十分一 我入位ニスヘシ
先革ヲ粘附セントスルキハ先棒ノ尖端ヲ牢堅ナル臺
ノ上ニ於テ十分ニ鍛へ固ノ以テ衝突ノ降其潰損ヲ防
クヘシ先革ノ外面ハ錫子ヲ以テ摩軋シ須ク粗雜ナラシ
ムヘシ之レ滑失ヲ防キ且白堊ヲシテ容易ク粘着セシ
ムルカ為ノナリ若シ數回衝突ノ後チ革ノ外面硝子ノ
如ク滑ラカニナリシキハ再ヒ錐子ヲ以テ之レヲ粗雜

ニスヘシ
棒尖ノ太サハ球ノ大小ニ應シテ定ム可シ
以上ハ此遊戯ニ用ユヘキ器械ノ製作ヲ解説ス今初心
者ノ屢陥リ易キニケノ弊害ヲ左ニ舉ケテ豫ノ之レカ
警戒ニ供セントス
左手ノ位置ヲ確定セス又棒ヲ安置スルノ十分ナラサ
ルニ已ニ球ヲ衝突スルモノハ必ス精巧ヲ得ルヲ能ハ
ス
又左手已ニ確定シ棒モ亦十分ニ安置セルモ尚未タ衝
突セスシテ棒ヲ前後ニ引突シ左手ノ上ヲ摩擦スルノ
數十回為ノニ數分時ヲ費スモノハ左手ノ母手遂ニ疲

勞シテ漸々下垂シ決シテ功ヲ遂クル能ハス此ノ如キ
 ハ正ニ琢玉師ノ名人トナルヘキノミ
 備此遊戯ノ練磨ヲ為スニ際シテハ先静心ニ照準ヲナ
 シ初メハ中心突キヲ試ミ十分之レヲ會得スルヲ待
 テ而シテ後ニ隨行突カ突飛突及ヒ廻轉突ト逐次ニ練磨
 スヘシ若シ此各種ノ衝突法ヲ一時ニ學ハントセハ心
 裏雜乱混淆シテ其一法ヲモ熟練スルヲ能ハサルヘシ
 棒ノ保チ方ハ堅突カ突飛突ヲ除クノ外ハ常ニ水平ニ
 持ツヘキトヲ臆記スヘシ
 球ニ觸突スル部分ノ異ナルニ從テ球ノ運轉及ヒ結果
 ノ異ナル理由ヲ解説セン即チ左ノ圖ヲ熟覽スヘシ

衝突五法之圖



圖上ニ一ト記スル衝突法ハ中心突ト名ツク而シテ此
 ノ棒球ヲ指ス以下同シルカ的球ハ方ニ在テ目的トナ
 シノ中心ニ衝突スル片ハ自己ノ運動力ヲ全ク的球ニ
 傳ヘ已レハ其所ニ停止シ的球ハ更ラニ同シ方向ニ直
 行スヘシ然レモ此ノ兩球相衝突スルノ際ニ於テ磨擦

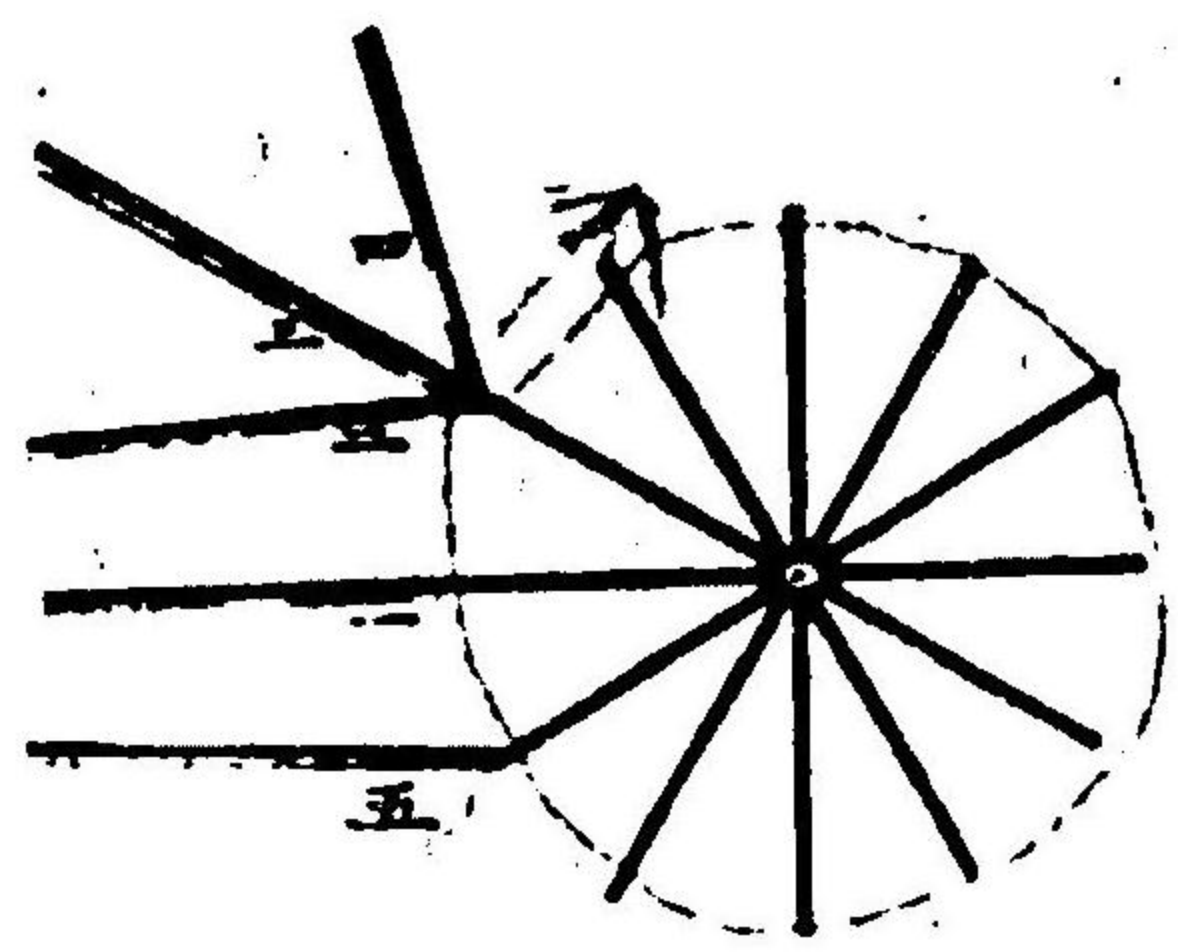
ト的球ノ重力ヲ壓動スルノカラ要スルヲ以テ的球ノ
運動力ハ棒球ニ比スルニ幾分カ減少スヘキナリ然シ
テ棒球ハ其巧ニ停止スヘシト雖モ尚聊廻轉力ノ殘存
セルアリテ暫時自轉シ在ルヘシ

- 二ト記スル衝突法ハ隨行突ト名ク此方法ニ因テ的球
ニ衝突スル片ハ棒球ハ其前進力ノ幾分ヲ減損スルト
雖モ自己ノ廻轉力ヲ以テ的球ニ追従シテ前進スヘシ
- 三ト記スル衝突法ハ飛突ト名ク此衝突法ハ他ノ法ニ
比スレハ其要少シトス即チ棒球ハ其衝突力ノ強弱ニ
應シテ多少盤面ヨリ飛躍スヘシ因テ名クルモノナリ
- 四ト記スル衝突法ハ豎突ト名クルモノニシテ最モ行

ヒ難キ突法ナリ故ニ佛式弄玉法ノ「カロー」ト稱スル
衝突法ヲ行フヘキ片ニ非サレハ之レヲ行フトナシ然
レモ之レモ亦學ハサルヘカラサルノ衝突法ナリ本編
ノ著述者曾チ「カルホル」ニヤ「州中第一等佛式弄玉家ト
稱セラル、」^{「グーモン」}氏ト「サンフランシスコ」ニ於テ勝
負ヲ決マシキハ全ク此豎突ノ法ニ因テ遂ニ勝利ヲ得
タルトアリ

五ト記スル衝突法ハ力突ト名クルモノニシテ弄玉遊
戯中ニ於テ最モ美ニシテ且要用多キ方法ナリ其衝突
方法ハ速ニメ銳ナル衝突力ヲ以テ球ノ中心ノ下ヲ衝
クヘシ左スレハ棒球ニ判然區別アルニ箇ノ運動力ヲ

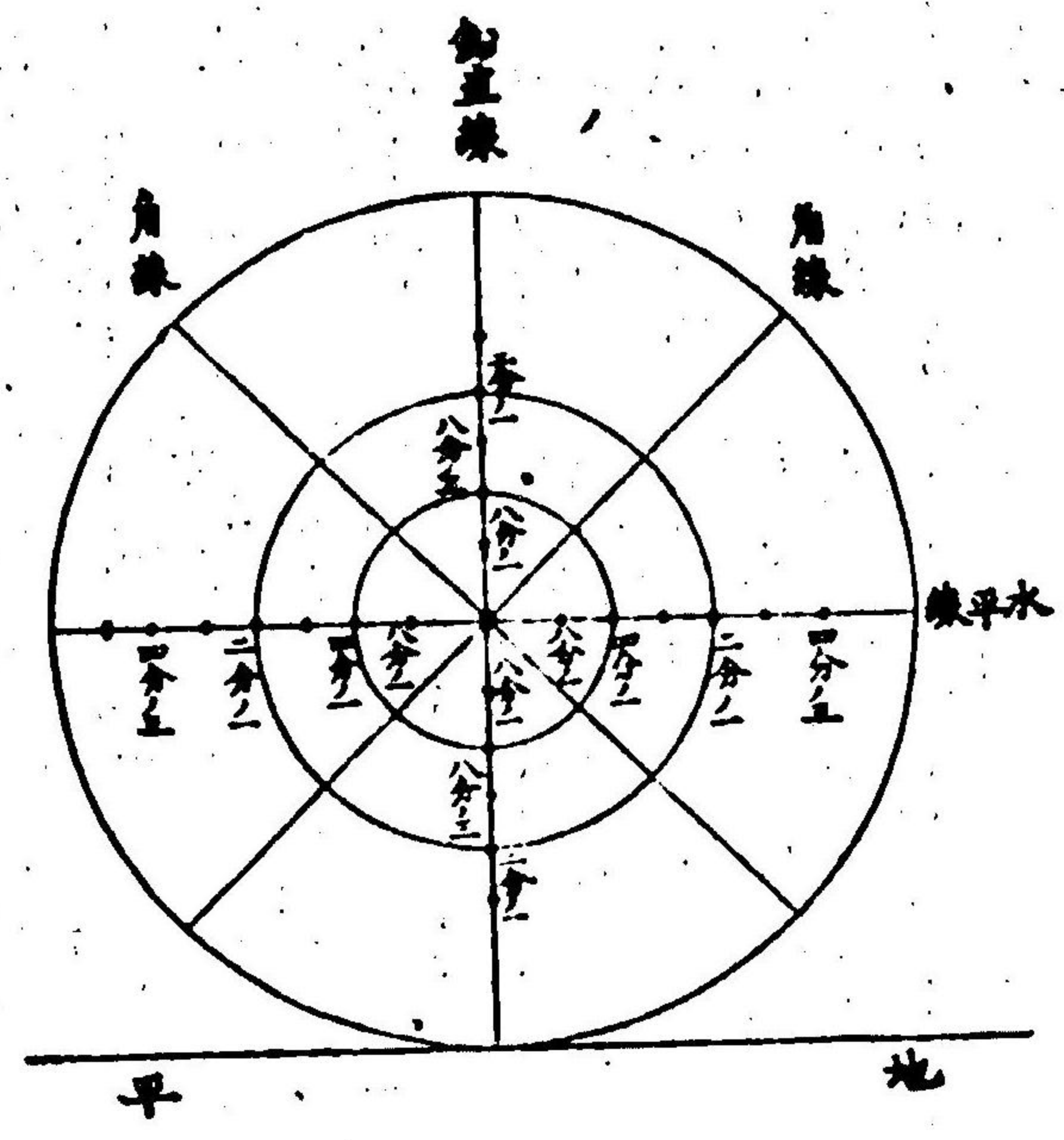
附與スヘシ即チ其一ハ球ヲ前進セシムルモノ又一ハ
 球ノ心軸ニテ後方ニ廻轉セシムルモノナリ譬ヘハ車
 輪ヲ空中ニ釣リ懸ケシモノト見做シ之ヲ解説スル所
 ハ忽チ其理由ヲ會得スヘシ即チ左ノ圖ヲ熟覽スヘシ



空中ニ釣リ懸ケタル車輪ノ中心ヲ正直ニ衝突スレハ
 輪ハ自ラ廻旋スルヲナク前進ニ進ムベシ然レド中心ヨ

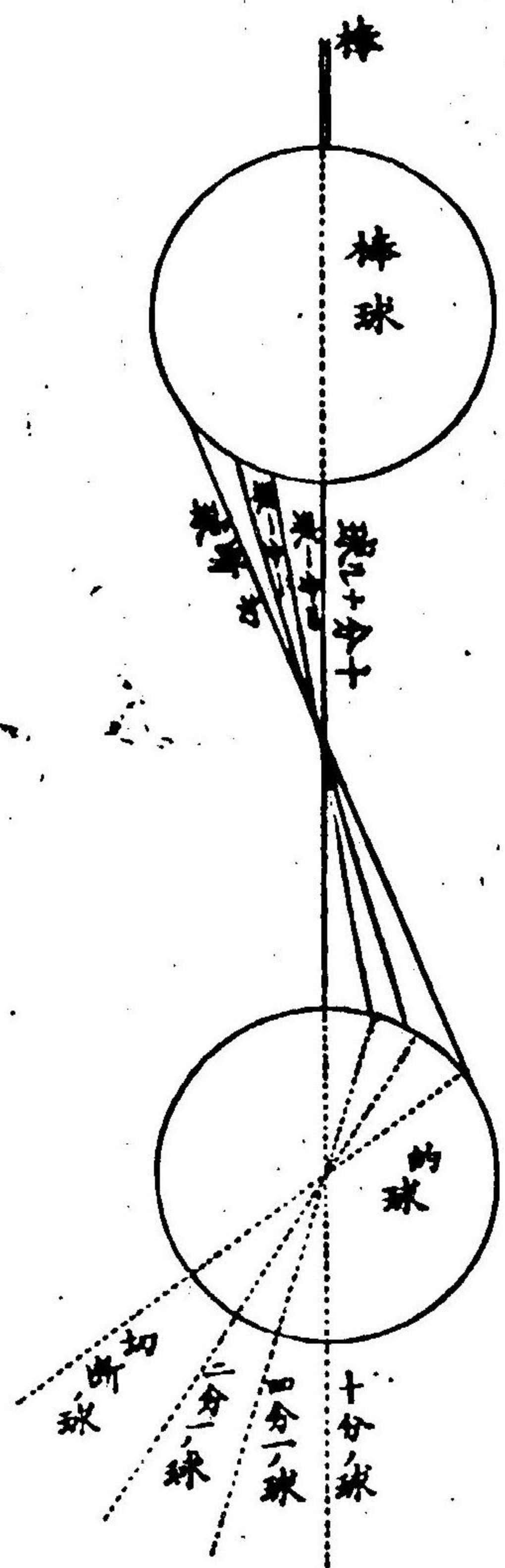
リ上ヲ衝突スル所ハ之レニ二箇ノ運動カヲ附與スヘ
 シ即チ一ハ之レヲ前進マシノ一ハ之レニ旋廻ノ運
 動カヲ附與スヘシ而シテ其旋廻ハ必ス前方ニ旋ルヘ
 シ若シ其中心ヨリ下ヲ衝突スル所ハ輪ノ前進ハ前ニ
 異ナラサルヘシト雖モ廻旋ノ運動ハ前ニ反シテ後方
 ニ旋ルヤ必然ノ理ナリ故ニ隨行突ニ於テハ中心ノ上
 ヲ衝突スルヲ以テ其前進ノ運動カハ的球ヲ打衝スル
 所已レノ運動カヲ之レニ移傳スルヲ以テ其前進カハ
 盡クレド自己ノ旋廻カハ尚存スルヲ以テ的球ニ隨テ
 尚前進スヘシ又其中心ノ下ヲ衝突スレハ的球ニ衝突
 スル所前進ノ運動カハ盡クレド自己ノ旋廻カニ因テ

再々後方ニ戻リ来ルヘキ
 以上ニ詳説スル理由ハ嘗ニ上下ノミニアラス左右ニ
 於ケルモ亦同ン理合ニシテ球ノ運動モ亦之レニ彷彿
 タルヘシ今將ニ其中心ノ左右ヲ衝突シテ生スル運動
 カ及ヒ球ノ進路如何ヲ詳説セントスルニ際シ先ツ球
 ヲ區分シタル圖ヲ左ニ揭示セン圖上ニ記セル鉛直線
 水平線及ヒ角線等ノ名稱并ニ何分何等ノ記數ハ本編
 中ニ於テ屢有用ナルヲ以テ看官宜シク臆記シ賜フヘ
 シ



球ノ中心ノ上下ヲ衝突シテ生スル運動力ハ前已ニ説
 ケル如シ然シテ球ノ水平線上ニ於テ中心ノ左右ヲ衝
 突スレハ前進ノ運動力ノ外的球ニ觸レシ右チハ其衝
 突セラレシ方ニ偏行スヘシ又角線上ニ於テ中心ノ上
 下ヲ衝突スレハ前進力ヲ的球ニ移傳シタル右チ上チ
 レハ其左右ニ因テ其方向ニ斜行シ下ナレハ等シク其
 左右ニ從テ其方向ニ斜ノニ戻リ来ルヘシ故ニ球ノ運
 動ヲ概言スレハ中心ヲ正シク衝突スレハ只一箇前進
 ノ運動力ヲ附與シ其上下或ハ左右ヲ衝突スレハ前進
 及ヒ旋廻ノ二箇ノ運動力ヲ附與スヘキモノト知ルヘ
 シ

以上ハ棒球ヲ衝突スヘキ區所ヲ説明ス今下ニ於テハ
 棒球ノ的球ニ衝觸スヘキ區所ヲ解説スヘシ
 左ニ揭示スル圖ハ弄玉遊戯ニ於テ用ユル語ニシテ即
 チ十分ナル球四分一ノ球二分一ノ球切斷ノ球等ノ方
 法ニシテ的球ニ衝突スル區所ノ異ナルニ從ヒ其運動
 ノ差異ヲ説明ス



圖中總線ハ棒球ノ進路ヲ示シ飛線ハ兩球衝觸ノ后ニ
的球ノ進路ヲ指示ス且其四分一球二分一球切斷球等
ノ衝突法ニ於テハ棒的ニ球共ニ大サ全ク均シケレハ
其抵觸スル部分モ亦必ス同シカルヘキ理ナリ
弄玉遊戯中ニ用ユル特別ノ語ヲ擧ケ以テ之レカ解説
ヲ為スヘシ

「ハザルド」

ノ解

或ル球ヲ一ノ受網ニ陷シ入ル、キハ「ハザルド」ヲ得タ
リト云フ又棒球ヲ受網ニ陷レタルキハ「ハザルド」ヲ失
セリト云フ若シ一衝ニシテニ球ヲ受網ニ陷レクルキ
ハ二重「ハザルド」ヲ行ヒタリト云フ

「カローム」

此ノ語ハ元來

「カランボラージュ」ト云フ佛

語ヨリ起ルモノニシテ棒球ガ他ノ球ノ二箇以上ニ抵
觸スル片ハ之レヲ行ヒタリト云フ英國ニ於テハ此ノ
語ヲ誤訛シテ「カノント」ト云フ

「キッス」

棒球カ一度衝突シタル球ニ再ヒ抵觸スル片ハ「キッス」
ヲ為セリト云フ

「スクラツチ」

棒球カ意外ニ球ノ期セサル球ニ抵觸スル片ハ「スクラ
ツチ」ヲ為セリト云フ

「フォールス」

之レハ所謂力突ニシテ棒球カ的球ニ衝突セシ後チ廻
轉偏行シテ他ノ球ニ抵觸スル片ハ之レヲ行ヘリト云
フ

「フォールロウ」

之レハ亦謂隨行突ニシテ棒球カ的球ヲ衝突シテ後チ
尚的球ヲ追フテ進ム片ハ之レヲ行フタリト云フ

「ジョンズ」

之レハ亦謂飛突ナルモノニシテ棒球カ的球ヲ打衝セ
サル前ニ於テ先ツ盤ノ一椽ヲ衝突スルヲ云フ而シ
テ此衝突法ニ於テハ熟練ナル弄玉家ト雖モ時トシテ

「メース」ヲ用ユルアリ

「スキュー」

之レハ棒尖ニ白塗ノ圓之シタルカ或ハ衝突宜キヲ得
スニテ棒カ球面ヲ失脚シ望ヲ達セサルヲ云フ

「ホルスト」

此ノ語ハ曾テ約束セシ數ヲ超越スト雖モ更ラニ敵手
ノ望ミニヨリ特別ノ約束ヲ結フヲ云フ專ラ「ボール
ト稱スル弄玉法ニ於テ用ユル語ナリ

「フレイレー」

此ノ語ハ已レノ棒球カ運動力ヲ失ヒタルハニ際シ敵
手ノ許諾ヲ得テ更ラニ再ヒ衝突スルヲ云フ之レモ

亦重ニ「プールト」稱スル弄玉法ニ於テ用ユルモノナリ
「ハザルド」ヲ取ル

此ノ語ハ若シ仕損シタルキハ其得ヘキ數ヲ罰トシテ
出スヘシト約束ヲ為スヲ得ヘキ程ニ慥カニ仕遂ルト
云フ「フ」ヲ廣言スルノ語ナリ之レ亦多ク「プールト」ニ用ユ
ルナリ

灰球

棒球ノ運轉力全ク盡キ他ノ球ニ迫運行スル能ハサル
キハ其球灰セリト云フ

無難ニ衝突セリ

衝突ノ右チ敵手ノ為ノニ如何トモ衝突シ難キ位置ニ

球ヲ散留セシメシキハ無難ニ衝突セリト云フナリ

「ハウグ」

球九カ盤様ニ沿フテ走スル「フ」ヲ云フ

「チンブルリック」

「ホウエリーション」ヨツト

「ゼルメントウチ」

三語共ニ棒球力二箇ノ的球ニ等シク同時ニ抵觸スル

「フ」ヲ云フ

「ドゥブレット」

「クロース」

受網ニ陥ルヘキ球カ之レト反對ヤル盤様ニ衝突シ跳

子返へリテ其受網ニ入ルヲ云フ

「ボールストーキ」

又「ショット」

此ノ語ハ弄玉遊戯ノ規則ヲ破リテ為セシ球九ノ衝突
ヲ云フ

十分ナル球

四分一ノ球

二分一ノ球

棒球「キューボール」

此等ノ語ハ圖解中ニ詳記セリ故ニ略ス

「ブリーク」

衝突ノ后チ球九ノ位置ヲ云フナリ

「ディスクオント」

之レハ弄玉遊戯中ノ一則ニシテ已レノ得タル數ト等
シキ數ヲ敵手ノ得數中ヨリ減シ已レハ其得タル數ヲ
自分ノ得數ニ加フルモノナリ例言ヘハ敵手ノ得數ニ
十ニシテ已レノ得數十八ナル片更ラニ二ノ數ヲ得ル
片ハ敵手ノ得數二十ノ内ヨリ其ニヲ減シテ其ニノ數
ヲ已レノ得數十八ニ加フ故ニ敵手ニ在リテハ都合四
ノ損失ニ當ルナリ又「ドウブルディスクオント」三倍ノ
コオント「トリブルディスクオント」三倍ノディスクオ
トナリ「トリブルディスクオント」三倍ノディスクオ
即チ其得數ノ二倍或ハ三倍ヲ加減スルモノナリ之レ

互ノ巧拙格別ノ差異アルキニ用ユル一法ナリ

フレイイングスポットボール

棒球ノ或ル位置ヨリ數度續テ赤色球ヲ受網ニ陥ルヲ得ヘキキハ定位ノ球ヲ衝突スルト云フナリ

コオント

得數ノ算用ヲ云フ又已レノ見込ミ通りニ衝突シ以テ豫算ニ違カハサリシ等ノキコオントヲ遠ケタリト云フナリ

ローウゲーム

非常ノ大敗ノトニシテ其巧拙格段ナルキ拙者ノ甚陥リ易キ状態ヲ云フナリ

マッス

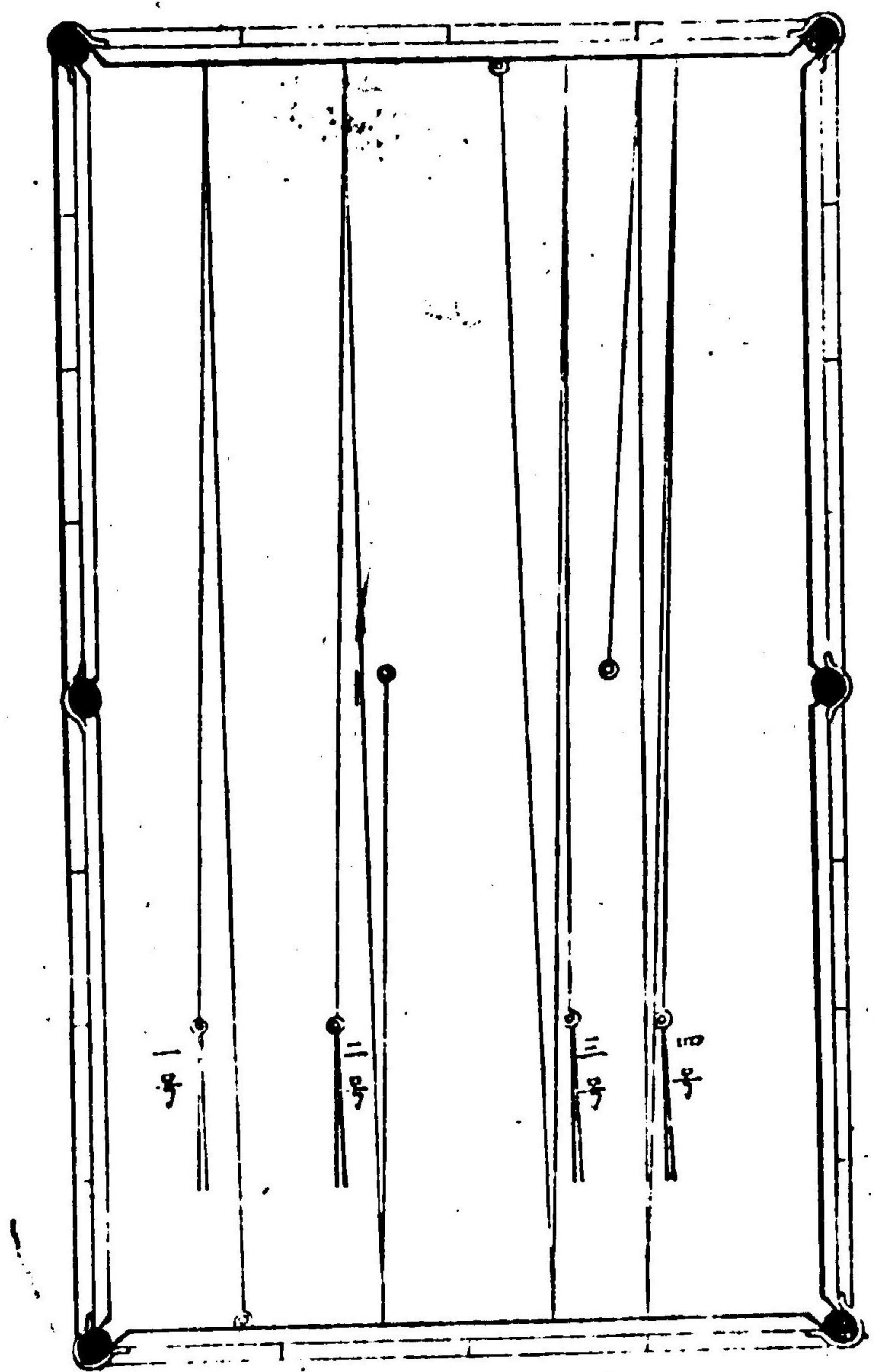
之レハ元來佛蘭西語ニシテ堅突ノトヲ云フモノナリ以上ハ弄玉遊戯中ニ於テ專ラ用ユル所ノ語解ニシテ尚漏遺尠カラスト雖モ他ハ其要稍少シ依テ之レ等ハ茲ニ略シテ記セス、
諸世上ニ行ハル、遊戯中ニ於テ此弄玉遊戯ノ如キ巧拙ノ大差アルハ蓋シ比類ナカルヘシ如何トナレハ特別ノ手練ノミナラス動体學并ニ測量學ノ要點カラス加フルニ目測照準ノ術ニモ亦達セサルヲ得サルカ故ニ之レ等ノ藝術ニ淺劣ナルモノ其博優ナルモノニ及フ能ハサルヲ以テナリ

茲ニ此弄玉遊戯ヲ好ム者ニ忠告スヘキコトアリ即チビ
ルヤルドシヤル弄玉遊戯場中ニ倅ノ騙術中ニ陥ラ
ルコトニ注意アルヘシ此ノシヤルナルモノハ何地
ヲ問ハス弄玉場中ニ入出シ百方欺偽ヲ巧ニシ巧言ヲ
以テ或ハ敵手トナリ或ハ助言者トナリ又金銀ヲ賭ケ
又他人ノ勝負ヲ傍博スル等其術極リナク主トシテ他
人ノ散財ニ生活スル可憎ノ狡兒ナリ凡ソ弄玉場中ニ
入ルモノハ專ラ顧慮注意アルヘキナリ

弄玉集

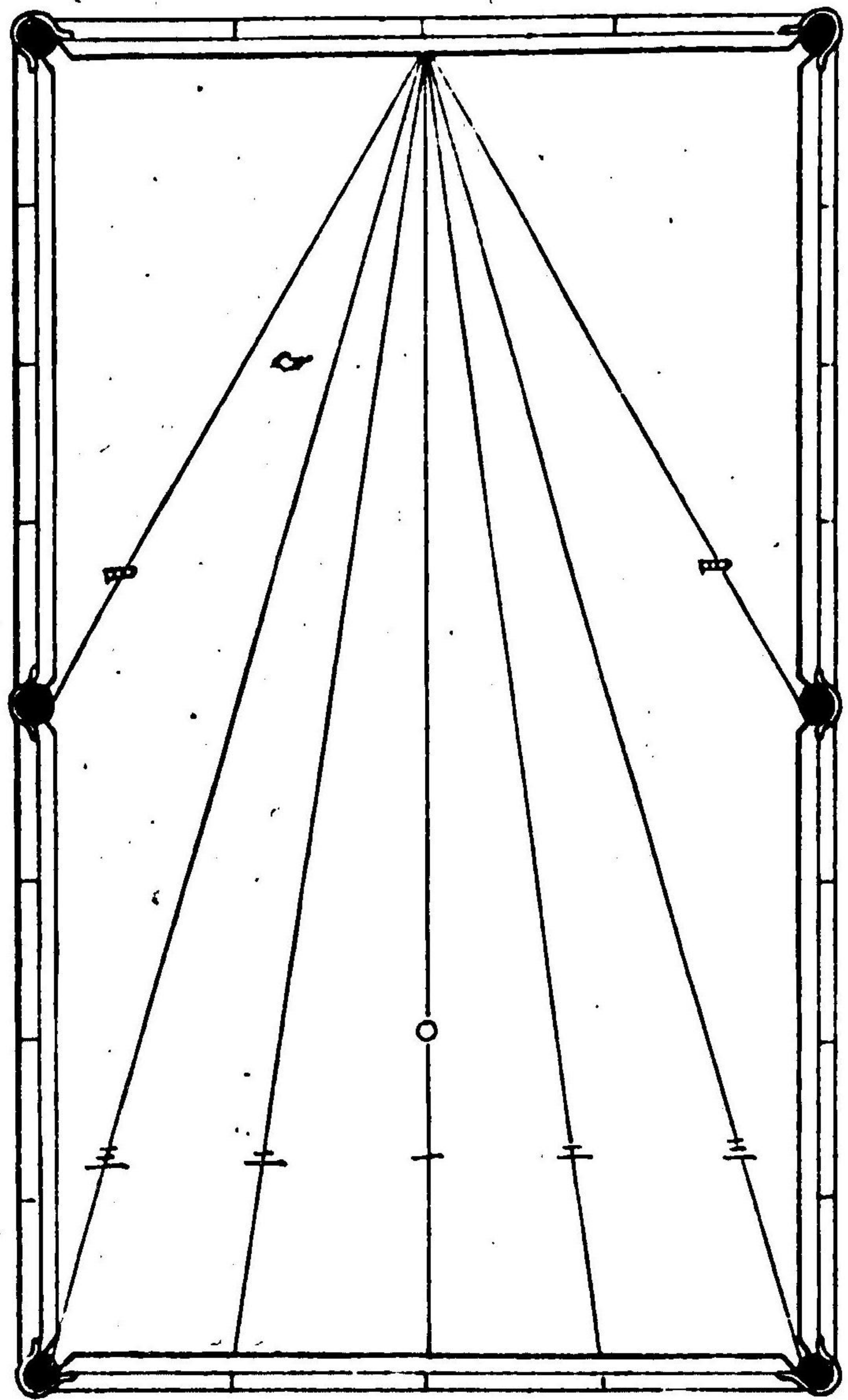
第二編

本編ニ於テハ衝突力及ヒ衝突法ヲ論スヘシ
凡ソ弄玉遊戯ニ於テハ其仕工并ニ照準ハ何程至巧至
正ナリト雖モ衝突力ノ強弱ニ因テ奏功必ス等シカラ
ス故ニ其力ノ強弱ヲ解得スルコトハ最第一ノ要項タリ
而シテ此事タル口演ノ克ク盡シ得ル所ニアラス因テ
其練習ノ為メニ左ニ一圖ヲ現ハシ番號ヲ附シ以テ其
強弱ヲ指示ス初心者之レヲ練習スルキハ帝ニ衝突力
ノ強弱手感ヲ會得スルノミナラス傍ラ照準ノ精密ヲ
學ブノ益多カルヘシ



圖中棒球ヲ其位置ヨリ對椽マテ突キ遣リ椽ニ衝突シ
 ナ手前ノ椽マテ反轉シ此所ニ至テ運動全ク盡クルニ
 適當スルカヲ第一號ノ衝突カト稱ス
 同ク對椽迄ヲ突キ遣リ衝突ノ后チ手前ノ椽マテ反轉
 シ又之レニ衝突シテ盤ノ中央迄テ反轉スルニ適スル
 カヲ第二號衝突カト稱ス
 同シク對椽ニ衝突シテ后チ手前ノ椽ニ反轉衝突シ又
 再タヒ對椽マテ反動シテ其所ニ停止スルニ適スルカ
 ヲ第三號衝突カト稱ス
 同シク對椽ニ衝突シテ后チ手前ノ椽迄反動シ再ヒ對
 椽ニ衝突シテ盤ノ中央迄テ反動シ此所ニ至リテ運動

力全ク盡クルニ適當スルカラ第四號衝突力ト稱ス
 右ノ四力ヲ十分會得シタル以上ハ尚其小部分即チ盤
 長ヲ四分シ其一分ツ、ヲ以上ノ衝突力ニ加減シ以テ
 其適度ヲ會得スヘシ之レ即チ甲號衝突力ヨリ乙號衝
 突力ニ至ルノ中間ニシテ何號半ノ衝突力ト稱スヘシ
 然シテ本編中ニ於テハ畧稱シテ一半力ニ半力或ハ三
 又四半力ト記ス看宜宜シク領セラレヨ且前編中ニモ
 已ニ述ヘシ如ク此力ト稱スルハ全体力或ハ所謂腕力
 ニアラスシテ專ラ腕首及ヒ手首ノ運動ノ速度ニ應シ
 ナカノ強弱ヲ致スモノナルヲ忘ルヘカラス
 左ニ掲載スル一圖ハ運動ノ角度ノ銳鈍ニ從テ衝突力

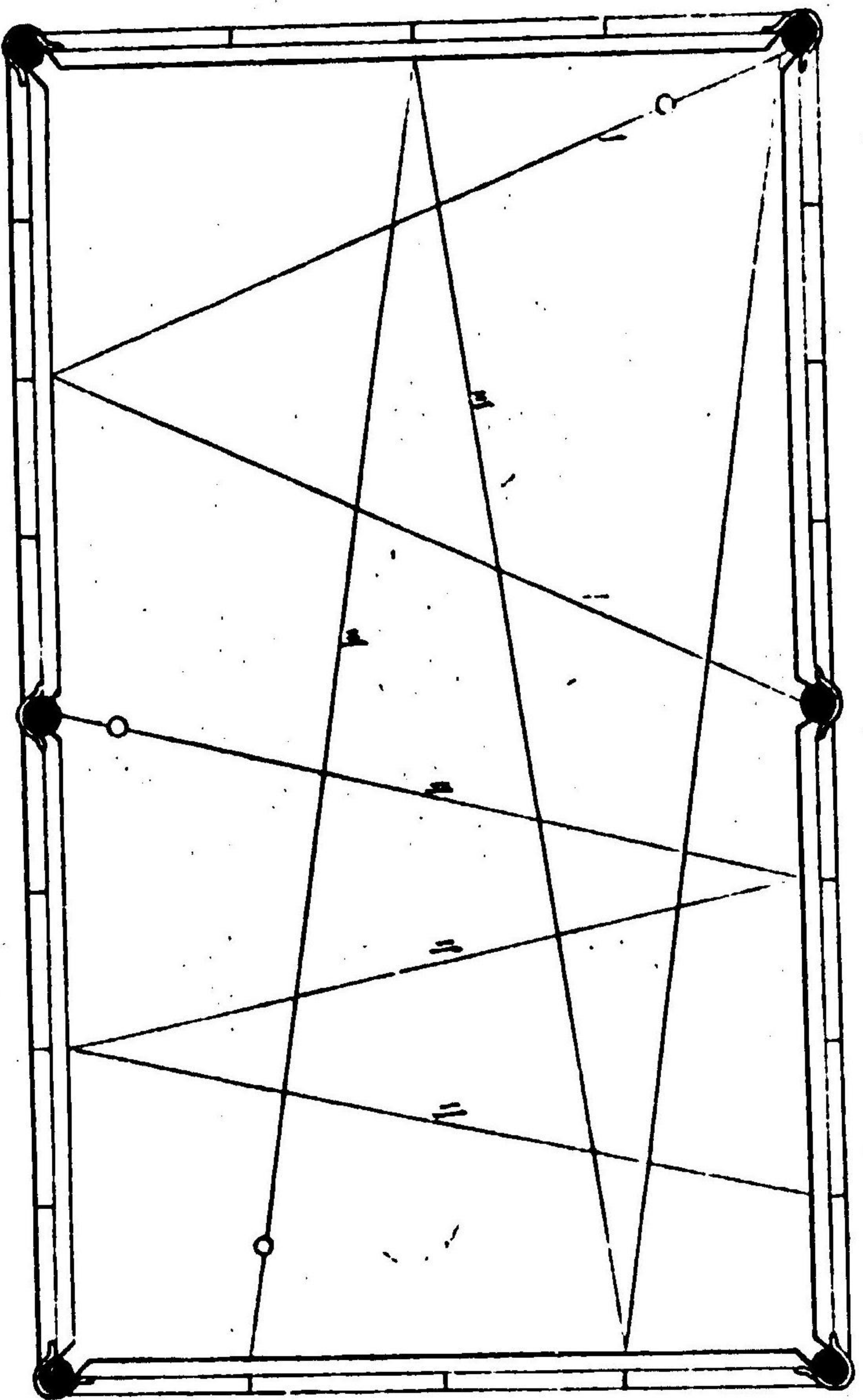


ニ要スヘキ強弱ヲ示スモノナリ

中央ノ照星ヨリ棒球ヲ真直ニ衝突シ同線上ヲ舊位ニ
 返轉セシムルニハ第一號ノカヲ要スヘシ
 二ノ點ヨリ棒球ヲ衝突シ他ノ二ノ點上ニ返轉セシム
 ルニハ二半ノカヲ要スヘシ
 三ノ點ヨリ棒球ヲ衝突シ他ノ三ノ點上ニ返轉セシム
 ルニハ三ノカヲ要スヘシ
 四ノ點ヨリ棒球ヲ衝突シ他ノ四ノ點上ニ返轉セシム
 ルニハ三半ノカヲ要スヘシ
 右ノ如ク返動ノ角度鈍ナルニ從テ衝突力ノ增強ヲ要
 スルヲ臆記スヘシ然シテ之レヲ基本トシテ各種ノ
 角度ニ應シテ衝突力ヲ増減酌量スヘシ

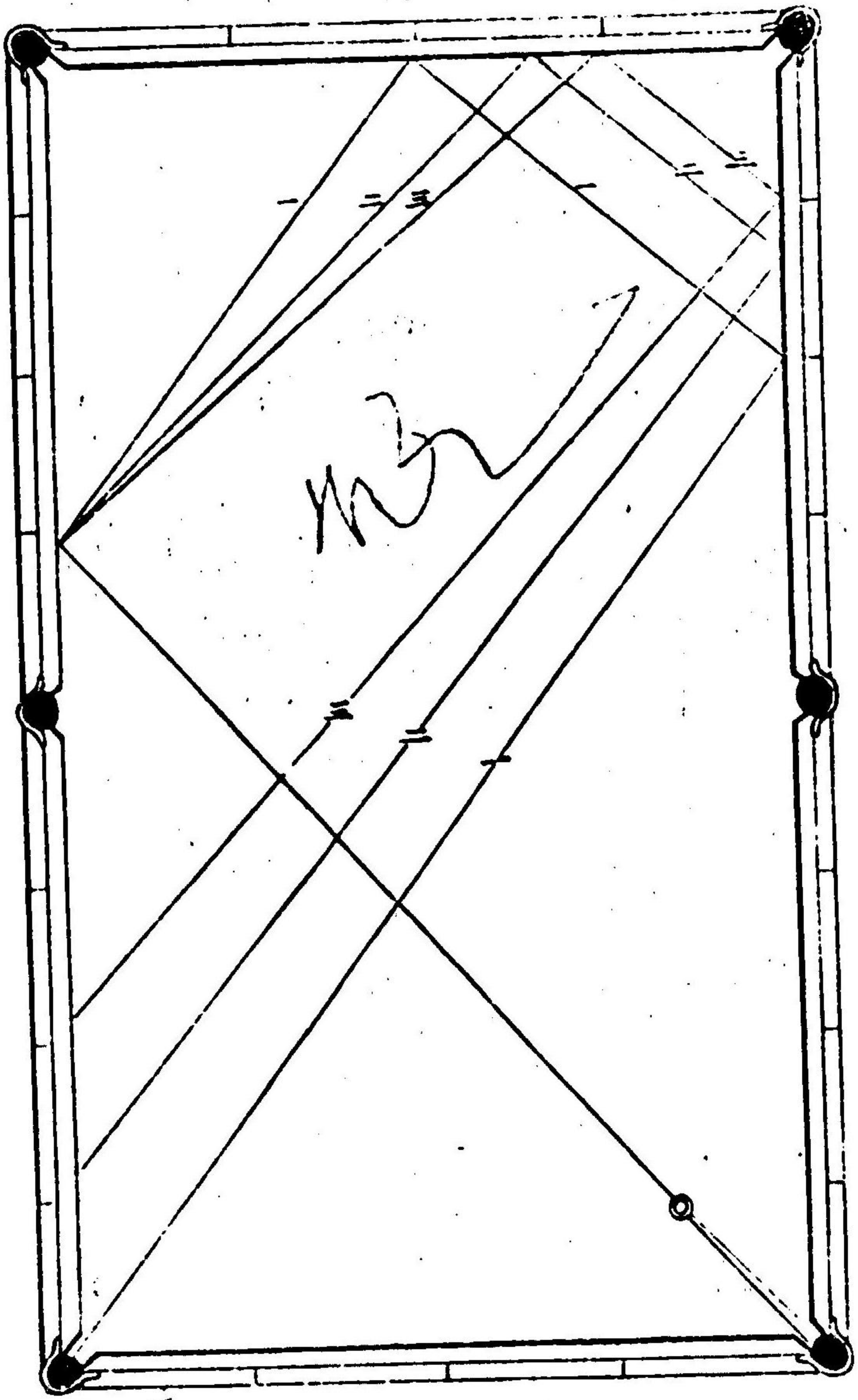
中央ノ照星ヨリ反對ノ中央照星ヲ衝突シテ其左右二
 三四等ノ點ニ偏流返動セシムルヲ得ルモノハ棒球ノ
 衝打ヲ受クル部分中心ノ左右ニ偏スルノ故ニ因ルテ
 リ所謂廻轉突ニシテ之レモ亦角度ノ銳鈍ニ應シテ要
 スヘキ衝突力ノ強弱アリ
 譬ヘハ右方ナル二ノ點上ニ返轉セシメント欲セハ正
 ニ一半ノカヲ以テ棒球ノ中心ヨリ僅カニ右ノ方ヲ衝
 突スヘシ又四ノ點上ニ返轉セシメント欲セハ二半ノ
 カヲ以テ棒球ノ中心ノ右四分一或ハ中心ノ下四分一
 或ハ中心下ノ鉛垂線ト角線ノ中間ヲ衝突スヘシ
 左ニ揭示スル一圖ハ其義粗上ニ掲クルモノニ等シト

雖モ盤様ヲ衝突スル二回ニ及フヲ以テ特ニ其理合ヲ
説明スルモノナリ



完全純正ナル盤上ニ於テ三ト示點セル衝突ヲ行フ片
ハ圖上ニ線畫セル如ク球九ハ右上隅ノ受網中ニ入ル
ヘシ尤モ之レカ為ノニハ最強ノ衝突カヲ要スヘシ
圖上一ト示點セル衝突法ト二ト示點セル衝突法ト比
較スルニ二ト記スル法ノ距離ハ一ト記スル法ヨリ殆
ント二分一長シト雖モ要スル所ノ衝突カハ共ニ異ル
トナシ是レ前ニ説明セシ如ク角度ノ鈍銳ニ因テ然ル
ノミ若シ弱微ナルカヲ以テ一ト記セル衝突法ヲ行フ
片ハ其角度愈鈍クシテ目的ニ達スヘカラス
左ニ揭示スル一圖ハ單ニ力ノ強弱ニ因テ同一ノ衝突
ヨリ生スル角度ノ漸次ニ變スル理由ヲ説明スルモノ

ナリ

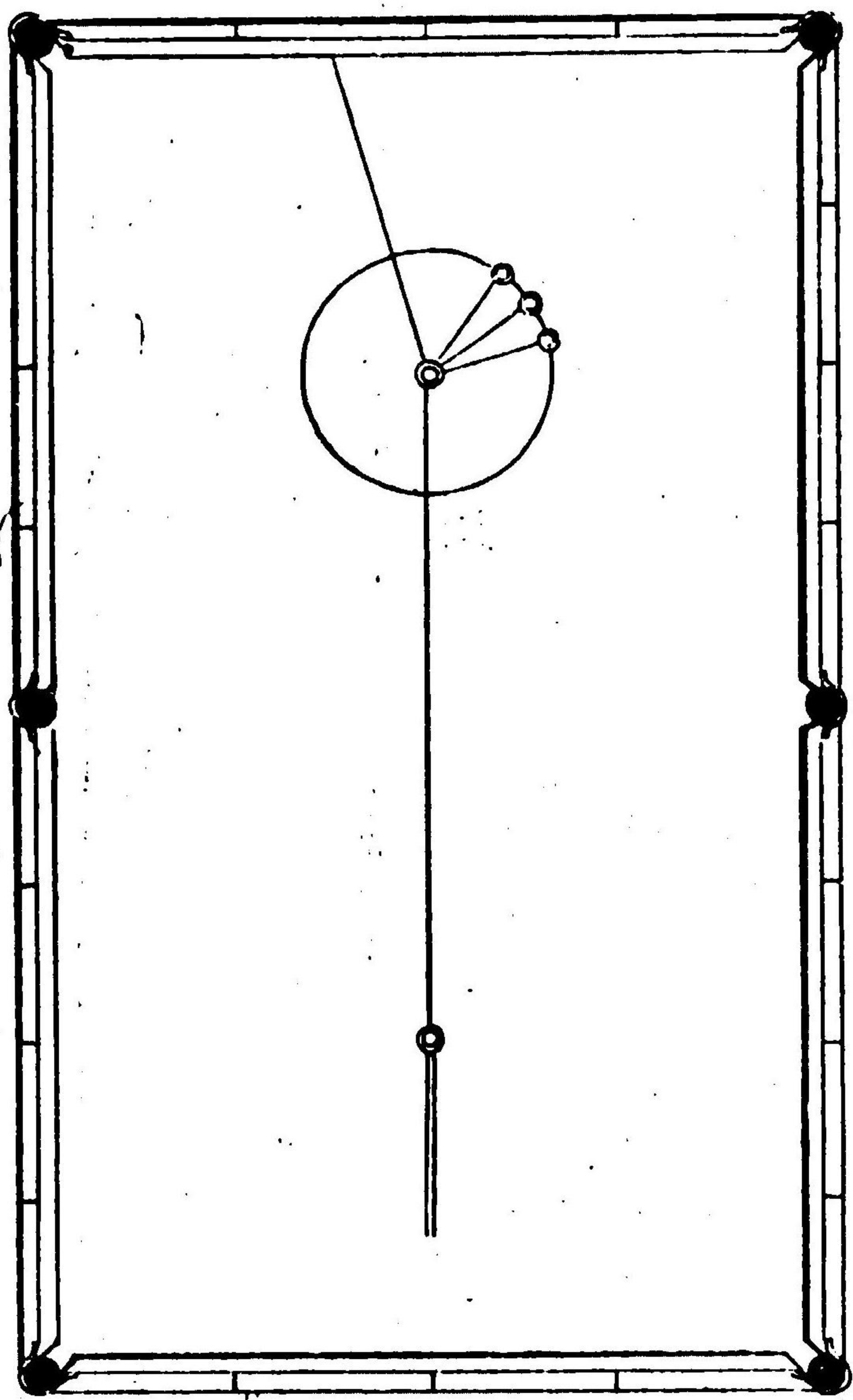


ニノカヲ以テ圖ノ如キ球ヲ衝突スレハ一ト示點セル

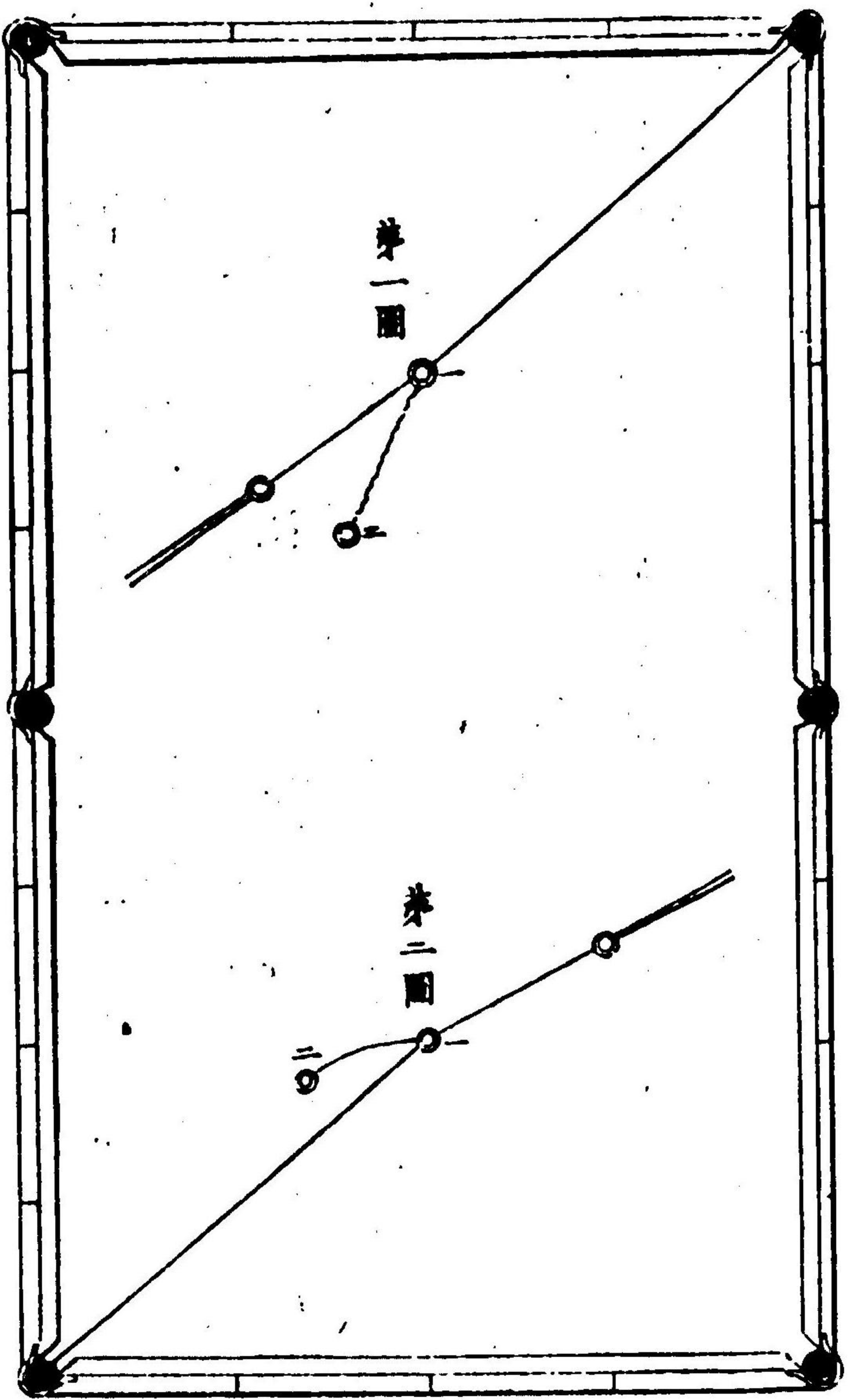
畫線ノ如ク左右及ヒ對面ト三次様ヲ衝突シテ下隅ノ
 受細ニ入ルヘシ若シ三ノカヲ以テ衝突スレハ二ト記
 セル線ノ如ク一層銳キ角度ヲ以テ返轉スベシ又更ニ
 強勢ナルカヲ以テ衝突スレハ角度益銳ナルベシ
 何故ニ斯クノ如キ變化アルヤト云フニ之レ他ニ非ラ
 ス先ツ最初様ニ衝突セシ片少シク球ノ廻轉スル軸ノ
 方向ヲ變シ而シテ再三衝突スル毎ニ愈著シク其軸ノ
 方向ヲ變スルカ故ナリ然シテ其軸ノ方向ハ如何ナル
 有様ニ變化スルヤト云フニ先ツ球ノ中心ヲ正シク衝
 突スル片ハ様ニ抵觸セサル間ハ其旋廻ノ運動ハ豎ト
 ルヲ以テ軸ノ方向ハ横ニシテ即チ水平ニ在リ然レバ

様ニ衝突フル際其旋廻運動ハ椽ノ彈力ニ因テ變シテ
 横トナルカ故ニ軸ノ方向ハ更ラニ豎ニシテ即チ鉛直
 ナルヘキノ理ナリ然ルニ前ノ水平軸ノ運動力尚全ク
 消滅セサルヲ以テ鉛直ト水平ノ中間ナル角線ニ變ス
 ヘキカ故ナリ又衝突力ノ強弱ニ從テ角度ノ銳鈍ヲ致
 ス所以ハ衝突力ノ強烈ナルニ順テ軸ノ方向ハ益鉛直
 ノ方ニ近ソクカ故ナリ而シテ第二第三ト逐次ニ椽
 抵觸スル毎ニ益變轉スト雖モ運動力ノ消滅スルニ際
 シテハ自己ノ重力及ヒ盤面ノ摩擦力ニ從テ終ニ旋廻
 ノ運動ハ豎トナリ軸ノ方向ハ横ニ變轉スヘシ
 左ニ掲示スル一圖ハ棒球カ的球ニ低觸セシ片其衝突

カノ強弱ニ因テ轉動ノ方向ヲ異ニスル理由ヲ説明ス
 ルモノナリ



棒球ノ中心ヲ衝突シ以テ的球ヲシテ對楮マテ畫セル
 線ヲ運轉セシムル為メニ適宜ナル部分ニ抵觸セシム
 ルキニ半ノカヲ用ユレハ棒球ハ三箇ノ中最モ下方ノ
 球ニカローム^レニ到達スヘシ又三ノカヲ用ユレハ中央
 ノ球ニカローム^レヲ為スヘシ若シ更ラニカヲ增加シテ
 三半ト為セハ最モ上方ノ球ニカローム^レヲ為スヘキナ
 リ
 以上ハ專ラ衝突力ノ強弱ニ從テ發生スル種々ノ效驗
 ノ記載セリ是ヨリ以上隨行突及ヒ力突ノ大義ヲ説明
 セントス即チ左ノ圖中ノ第一圖ハ力突ノ方法第二圖
 ハ隨行突ノ方法ヲ説明スルモノナリ

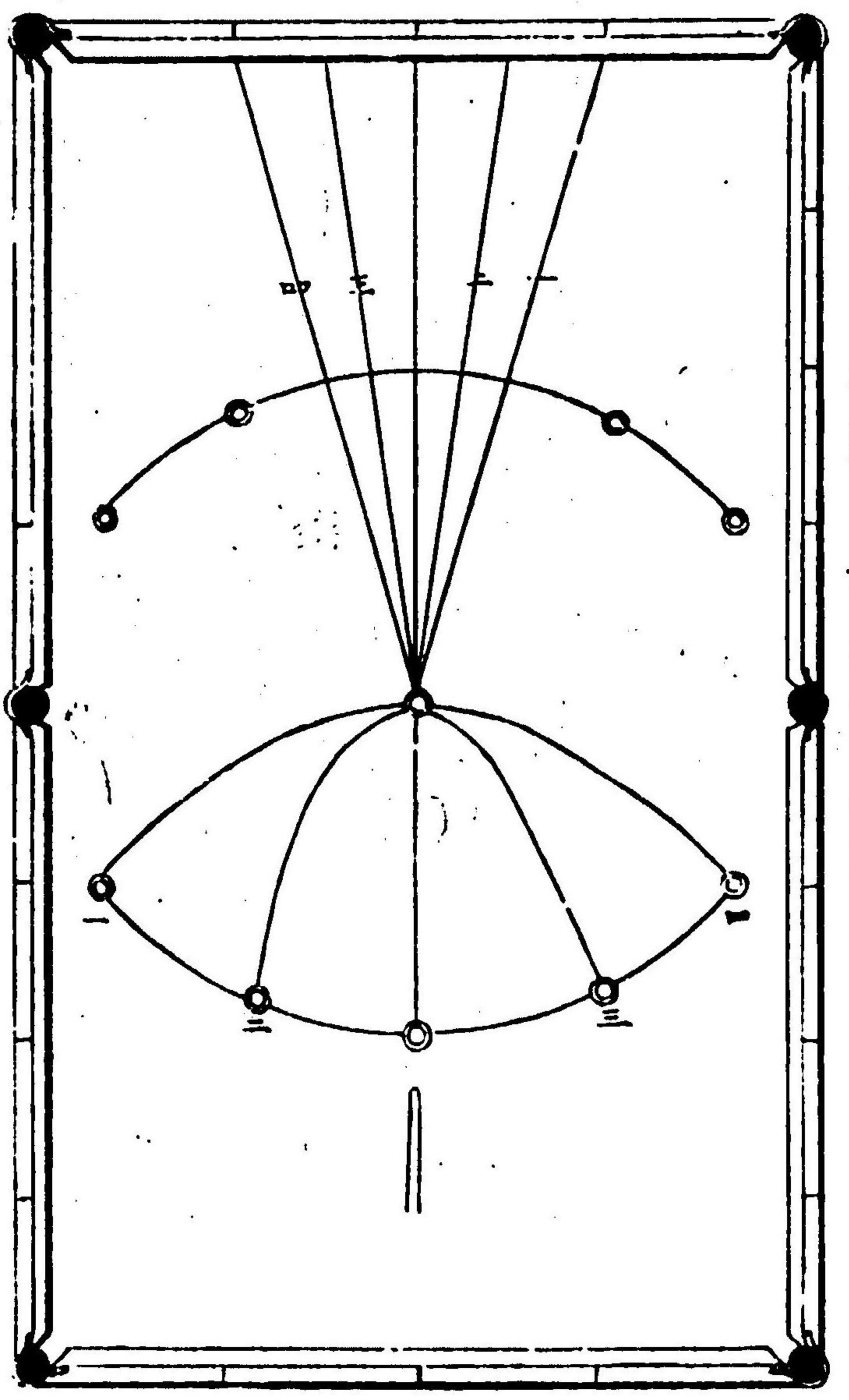


此衝突法タル一ト記セル球ヲ受網ニ陥入レニト記セ
 ル球ニカローム^レヲ為スニアリ其法即チ二ノカヲ以テ

棒球ノ中心ノ下四分一ヲ衝突シ的球ノ中心右八分一
 ノ打衝スヘシ又如何ノ理ニ因テ棒球カニト記セル球
 ニ反動スルヤ其道理ハ已ニ前編棒ノ位置ヲ論セシ條
 下ニ詳トリ

第二圖ハ隨行突ノ方法ヲ説明ス一ト記セル球ノ受網
 ニ陥レニト記セル球ニ「カロー」ムヲ為スナリ其法即チ
 一半ノカヲ以テ棒球ノ中心上四分一ヲ衝突シ的球ノ
 中心ヨリ僅カニ右ト思フ部分ヲ打衝スヘシ
 左ノ圖ハ尚力突隨行突ヲ密ニ説明スルモノナリ而シ
 テ其一二三四ト記セル球ハ之レニ「カロー」ムヲ為スヘ
 ク又一二三四ト記セル畫線ハ的球カ棒球ニ衝突セラ

レナル右チノ違路ヲ示スモノナリ

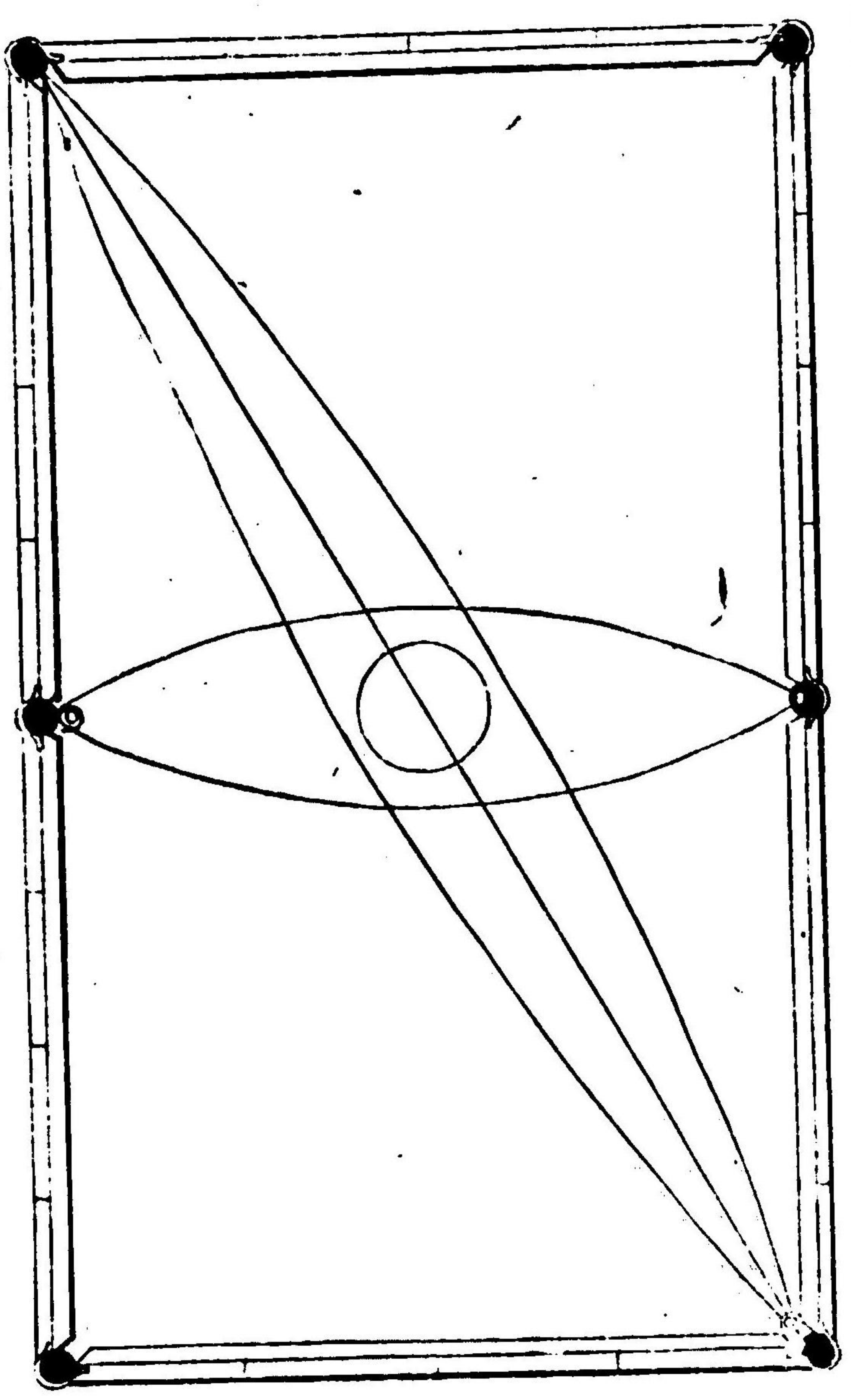


棒球ヲシテ真直ニ的球ニ隨行セシムル為メニ八一或
 ハ一以上ノカヲ以テ棒球ノ中心ノ上四分一ノ點ヲ衝

突シ的球ノ正シキ中心ニ衝突セシムヘシ又棒球ヲ前
ノ位置ニ直線ニ返動セシムル力突ノ為メニハ二半ノ
力ヲ以テ棒球ノ中心ノ下四分一乃至二分一ノ點ヲ衝
突シ的球ノ正中心ニ衝突セシムヘシ
一ト記スル球ニカロームヲ為ス為ニハ三ノ力ヲ以テ
棒球ノ中心下二分一左四分一ノ點ヲ衝突シ的球ノ中
心ニ衝突セシムヘシ
二ト記スル球ニカロームヲ行フ為メニハ三ノ力ヲ以
テ棒球ノ中心下四分一左二分一ノ點ヲ衝突シ的球ハ
同シク中心ニ衝突セシムヘシ
其三及ヒ四ト記スル球ニカロームヲ為ス為メニハ只

左右相反スルノミ
若シ又棒球ヲシテ隨行突ニ因テ一二三四ト記セル線
ニ進行セシメント欲セハ其衝突スヘノ點ハ常ニ中心
ノ上四分一乃至二分一ナリト雖モ其左右ニ偏スルニ
順シテ的球ノ中心ヲ左右ニ衝突セシムルヲ要スベシ
之レ等ハ細説ノ要セスシテ已ニ明々タルベシ
以上ハ專ラ力突及ヒ隨行突ノ方法并其理由ヲ説明ス
今下條ニ就テハ專ラ廻轉突及ヒ豎突ノ方法并ニ其理
由ヲ説明セントス

右ノ圖中弄玉盤ノ中央ニ畫ヒル圓輪ハ一箇ノ障礙物ニシテ帽子或ハ盆ノ類ナリ



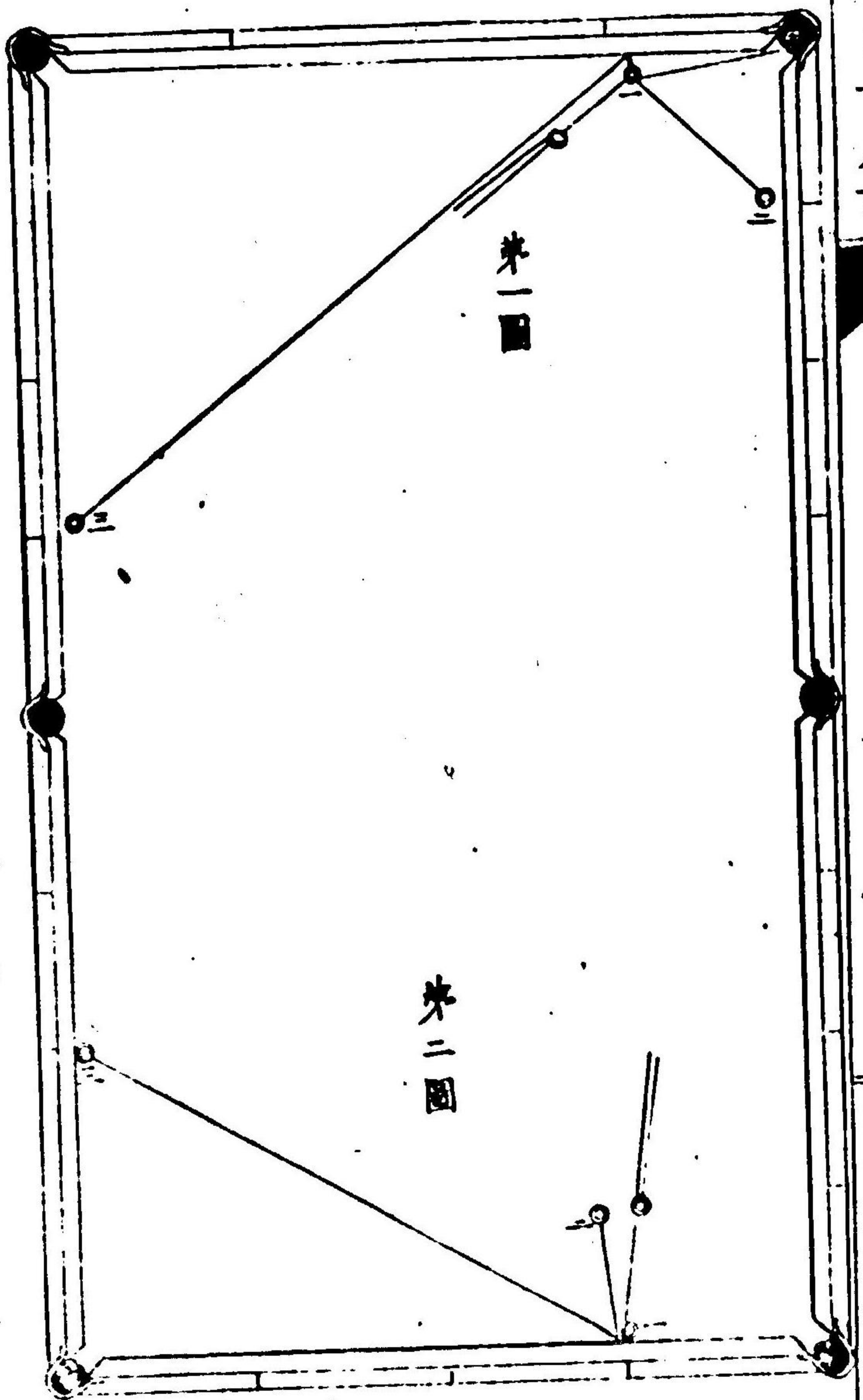
諸其障礙物ヲ避クル為ノ・棒球ヲシテ圓ノ如キ弧線ヲ畫カシムルノ方法ハ盤ノ堅ニ於テスルモ横ニ於テスルモ只衝突力・聊カノ差異アルノミニシテ大義ニ於テ異ナルナシ
此ノ衝突法ヲ行ハント欲セハ前編詳説セル堅突ノ方法ニ從ヒテ少シクトモ四十五度ノ角度ニ棒ヲ保テ須ク速烈ノ衝突ヲ要スヘシ
譬ヘハ盤ノ一隅ヨリ障礙物ノ右側ヲ弧線狀ニ進行シ他ノ一隅ノ受廻ニ入レント欲セハ棒ヲ四十五度ニ保チニ以上三迫ノ力ヲ以テ中心ノ左ニ合一ノ點ヲ上ヨリ衝突スヘシ又障礙物ノ左側ヲ進行セシムル為メ

ハ同法ニ従ヒ只衝突點ノ左右相反スルノミ
若シ又盤ノ中央ノ受廻ヨリ圖ノ如キ衝突法ヲ行ハン
ト欲セハ棒ノ角度ヲ尚五度加ヘ五十度ニ保テ衝突力
ハ却テ前ノ半分ニ減スヘシ然レド腕首ノ運動ハ更ラ
ニ前法ヨリ一層猛烈ナルヲ要ス衝突ノ點等ハ前ニ異
ナルトナシ

此ノ如キ衝突法ニ於テハ先ツ其照準ノ點ヲ確定スル
ト緊要ナリ即チ弧線ノ矢徑一「ピ」トナルキハ球ヲ抵
觸セシメント欲スル點ヨリ左右一「ピ」トナル一點ヲ
照準スヘシ若シ然ラスシテ正シク其抵觸セシメント
欲スル點ヲ照準シ以テ衝突スルキハ遙カニ之レヲ超

ヘテ其左右ニ偏流スヘキナリ
左ノ圖ハ棒球ヲ打衝スル部所ニ従テ的球ニ衝突シテ
右チ棒球ノ進路異ナルトヲ説明スルモノナリ且此圖
ニ就テ仮令的球ニ衝突スル部所ハ同一ナルモ棒球ノ
進路ハ其打衝ヲ受ケタル部所ニ應シテ大ニ異ナルト
アリト知ルヘシ

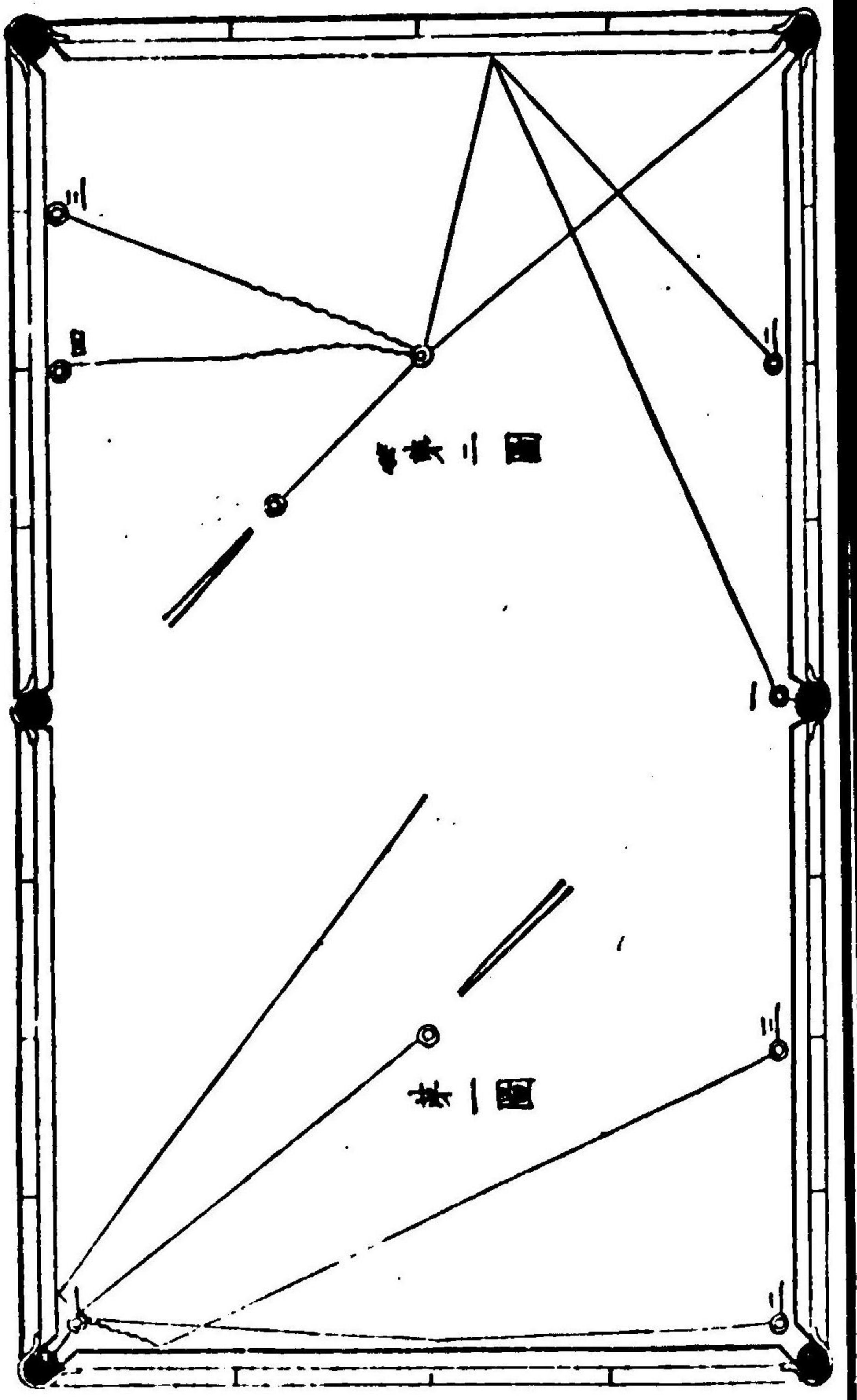
此第一圖ハ二或ハ三ト記スル球ニ「カローム」ヲ行ヒ一
 ト記スル球ヲ受細ニ陥ル、ノ方法ヲ説明ス即チ其二ト
 記スル球ニ「カローム」ヲ行フニハ一半ノ力ヲ以テ中心



ノ右二分一ノ點ヲ衝突シ的球ハ受細ヨリ其中心ノ通
 シテ畫セル一直線ノ球面ノ輪線ヲ切斷スル一點ヲ照
 準點トナシ以テ衝突スヘシ又三ト記スル球ニ「カローム」
 ヲ為サント欲シハ二半ノ力ヲ以テ中心ノ左二分一ニ
 シテ下二分一ノ點ヲ衝突シ的球ハ前ト同シ點ヲ照準
 スヘシ

第二圖ハ一ト記スル球ヲ受細ニ陥レニ或ハ三ト記ス
 ル球ニ「カローム」ヲ行フノ方法ヲ説明スルモノナリ即
 チ二ト記スル球ニ「カローム」ヲ為サント欲セハ二半ノ
 力ヲ以テ中心ノ二分一左ニシテ四分一下ノ一點ヲ衝
 突シ的球ハ全ク切斷カナリニ打衝スヘシ而シテ此衝

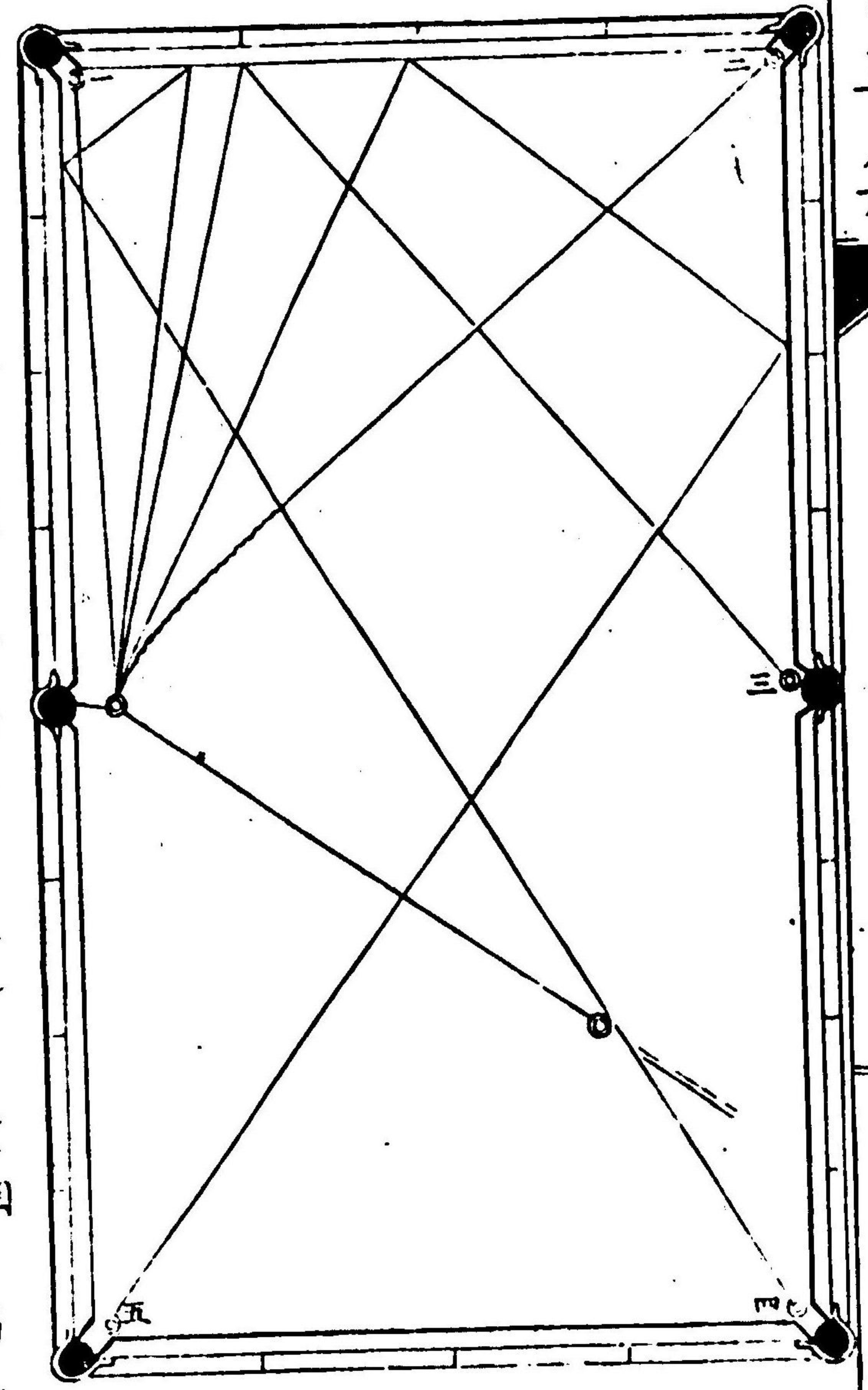
突法ニ於テ棒球ノ中心下ヲ衝突スル所以ハ之レニ力
 突ト同一ナル運動ヲ附與セシカ為メナリ如何トナレ
 ハカ突ノ如キ運動ハ楮ヨリ返動スルノ際其角度ヲシ
 テ鋭ナラシムルヲ以テナリ
 三ト記スル球ニ「カローム」ヲ行フ為メニハ的球ハ前ト
 同シ點ヲ打衝シ棒球ハ一ノカヲ以テ中心ノ右二分一
 ノ一點ヲ衝突スヘシ即チ廻轉突ノ一法ナリ
 左ノ圖モ亦前ト同法ニシテ少シク玉位ノ異ナルノミ
 ナリ



右ノ第一圖ハ一ト記スル球ヲ受網ニ陥レニ或ハ三ト
 記スル球ニ「カローム」ヲ行フ方法ヲ説明スルモノナリ

一ト記スル球ヲ受網ニ陥レニト記スル球ニカローム
ヲ行フ為ノニハ二ノカヲ以テ八分一右八分一上ヲ衝
突シ的球ハ切斷ニ打衝スヘシ又三ト記スル球ニカ
ロームヲ行フ為ノニハ二半ノカヲ以テ二分一左十六分
一上ヲ衝突シ的球ハ前ト同シ點ヲ打衝スヘシ
第二圖ハ的球ヲ受網ニ陥レ一二三及ヒ四ト記スル球
ニカロームヲ行フノ方法ヲ説明ス
一ト記スル球ニカロームヲ為スニハ三ノカヲ以テ二
分一上十六分一左ヲ衝突スヘシ
二ト記スル球ニカロームヲ行フ為ノニハ二半ノカヲ
以テ二分一上八分一右ヲ衝突スヘシ

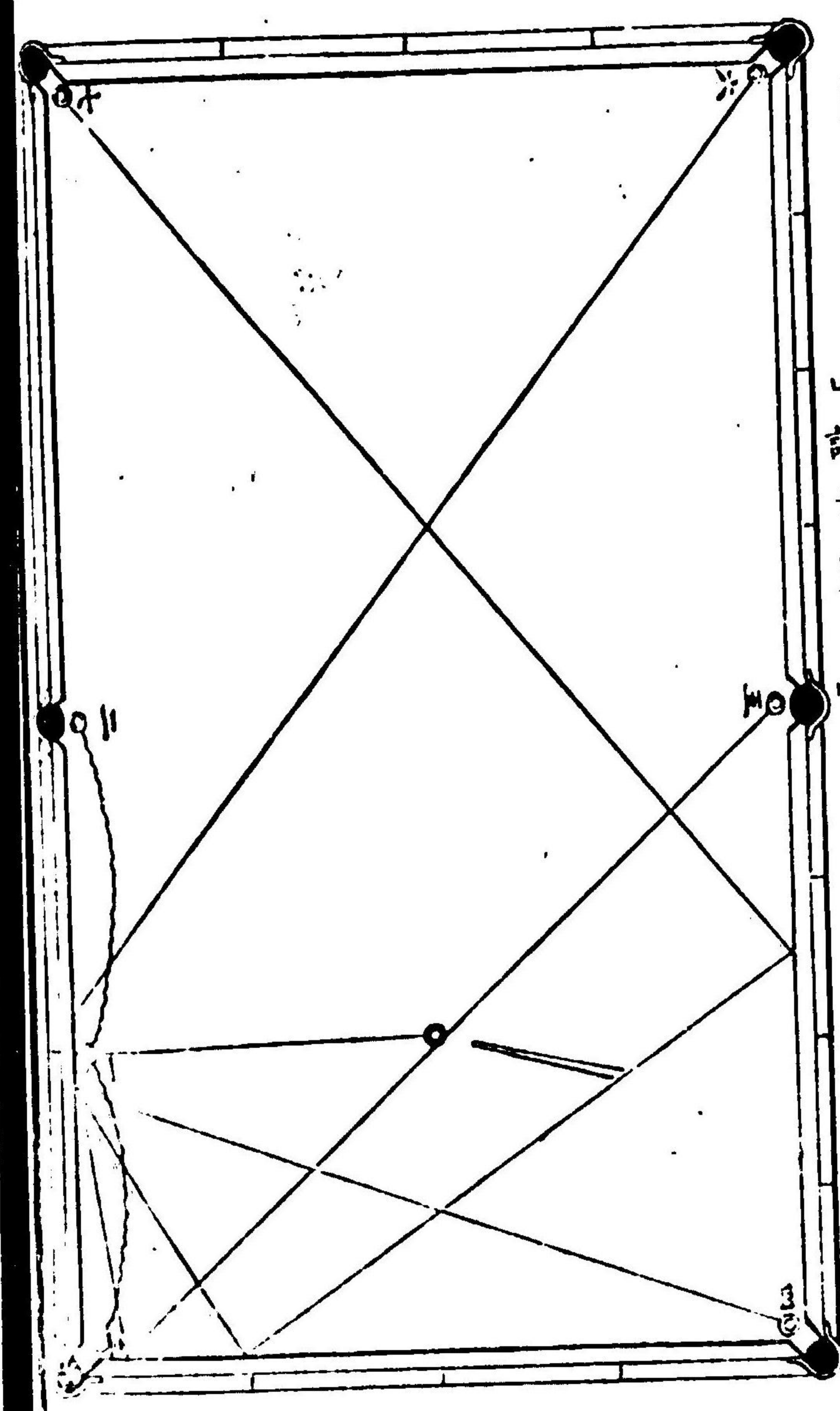
三ト記スル球ニ之レヲ行フ為ノニハ三ノカヲ以テ四
分一下四分一左ヲ衝突スヘシ
四ト記スル球ニ之レヲ行フ為ノニハ二分一下十六分
一左ヲ衝突スヘシ
左ノ圖ハ廻轉突ノ方法ヲ詳説スルモノナリ



棒球ノ位置ヨリ的球ヲ打衝シテ之レヲ受廻ニ陥レ一
 二三四及ヒ五ト記スル球ノ一箇ニカロームヲ行フノ
 法ヲ説明スルモノナリ即チ其一ト記スル球ニ之レヲ

行フ為ノニハ一ノカタヲ以テ中心ノ上四分一ノ點ヲ衝
 突スヘシ
 二ト記スル球ニ之レヲ行フ為ノニハ二半ノカタヲ以テ
 二分一下四分一右ヲ衝突スヘシ
 三ト記スル球ニ之レヲ行フ為ノニハ二半ノカタヲ以テ
 四分一右ヲ衝突スヘシ
 四ト記スル球ニ之レヲ行フ為ノニハ三分一ノカタヲ以テ二
 分一左八分一上ヲ衝突スヘシ
 五ト記スル球ニ之レヲ行フ為ノニハ三分一ノカタヲ以テ
 二分一右八分一下ヲ衝突スヘシ
 右ノ方法ニ從テ的球ハ其打衝スヘキ部所ヲ指示セリ

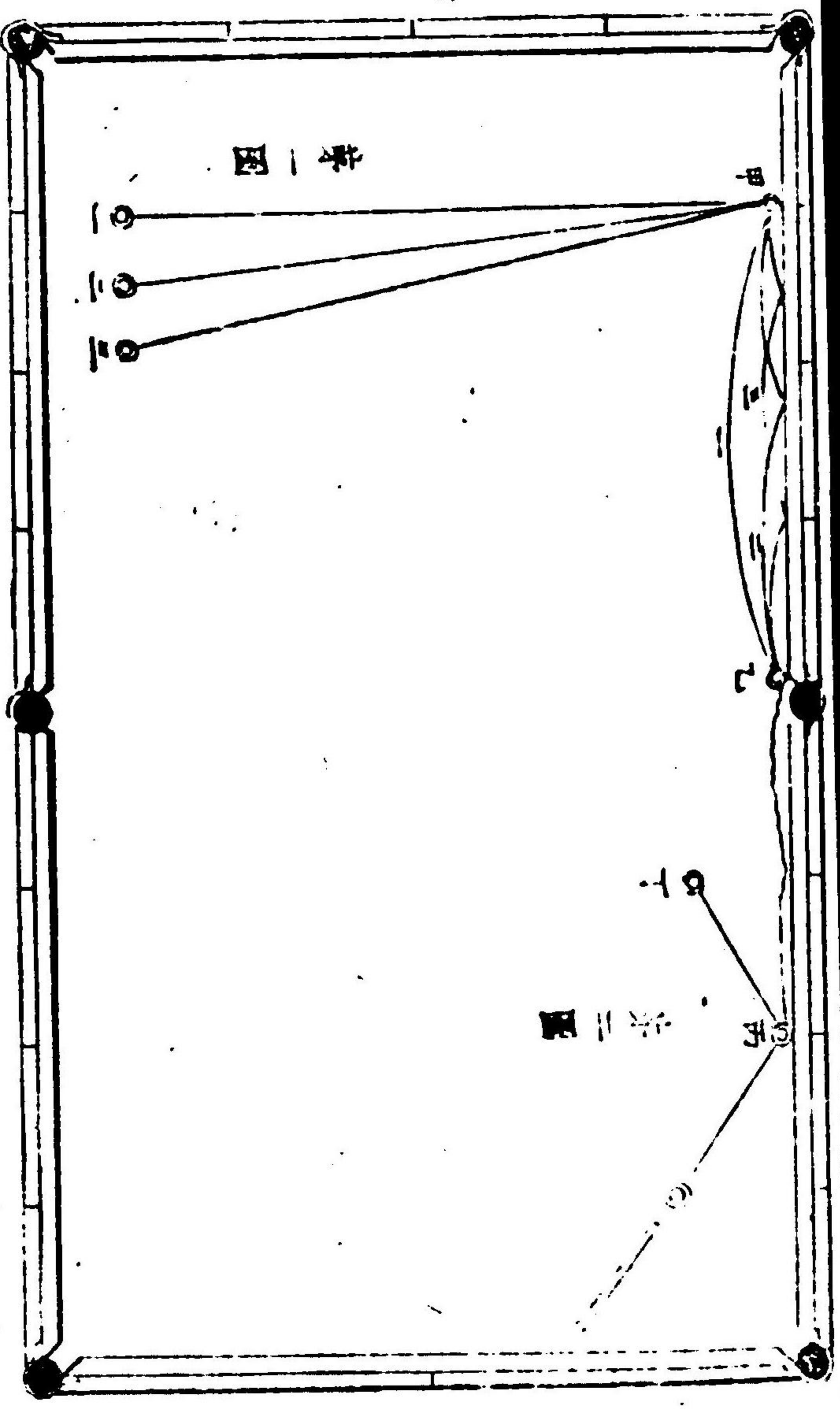
ルモ前編ノ圖中ニ示ス所ヲ見テ其受網ノ方ニ轉動ス
 ルニ至適ナル一點ヲ打衛スヘシ
 左ノ圖ハキツス前編ニ及ヒ側面衝突ヲ説明ス



右ノ圖ハ一ト記スル球ヲ的球トシ一二三四五六及ヒ
 七ト記スル球ニカロームヲ行フ方法ヲ説明スルモノ
 ナリ
 キツスニ因テ二ト記スル球ニカロームヲ行フ為メニ
 ハニ半ノカヲ以テ二分一上ハ分一左ヲ衝突シ的球ノ
 四分一右ニ打衛スヘシ又三ト記スル球ニ之レヲ行フ
 為メニハ之レト同法ニシテ只左右相反スルノミナリ
 四ト記スル球ニ之レヲ行フ為メニハニ半ノカヲ以テ
 四分一右四分一下ヲ衝突シ的球ハ左ニ切斷ニ打衛ス
 ヘシ
 五ト記スル球ニ之レヲ行フ為メニハ三ノカヲ以テ二

分一左二分一下ヲ衝突シ的球ノ八分三左ヲ打街スヘ
 シ
 六ト記スル球ニ之レヲ行フ為メニハ二ノ力ヲ以テ四
 分一右ヲ衝突シ的球ハ右ニ切斷ニ衝突スルヲ要ス
 七ト記スル球ニ之レヲ行フ為メニハ三半ノ力ヲ以テ
 二分一下二分一左ヲ衝突シ的球ハ左ニ二分一ニ打街
 スヘシ

左ノ圖ハ棒球ノ位置ヲ異ニスルニ因テ的球ニ衝突シ
 テ右ヲ其進路ヲ異ニスルノ理ヲ説明スルモノナリ



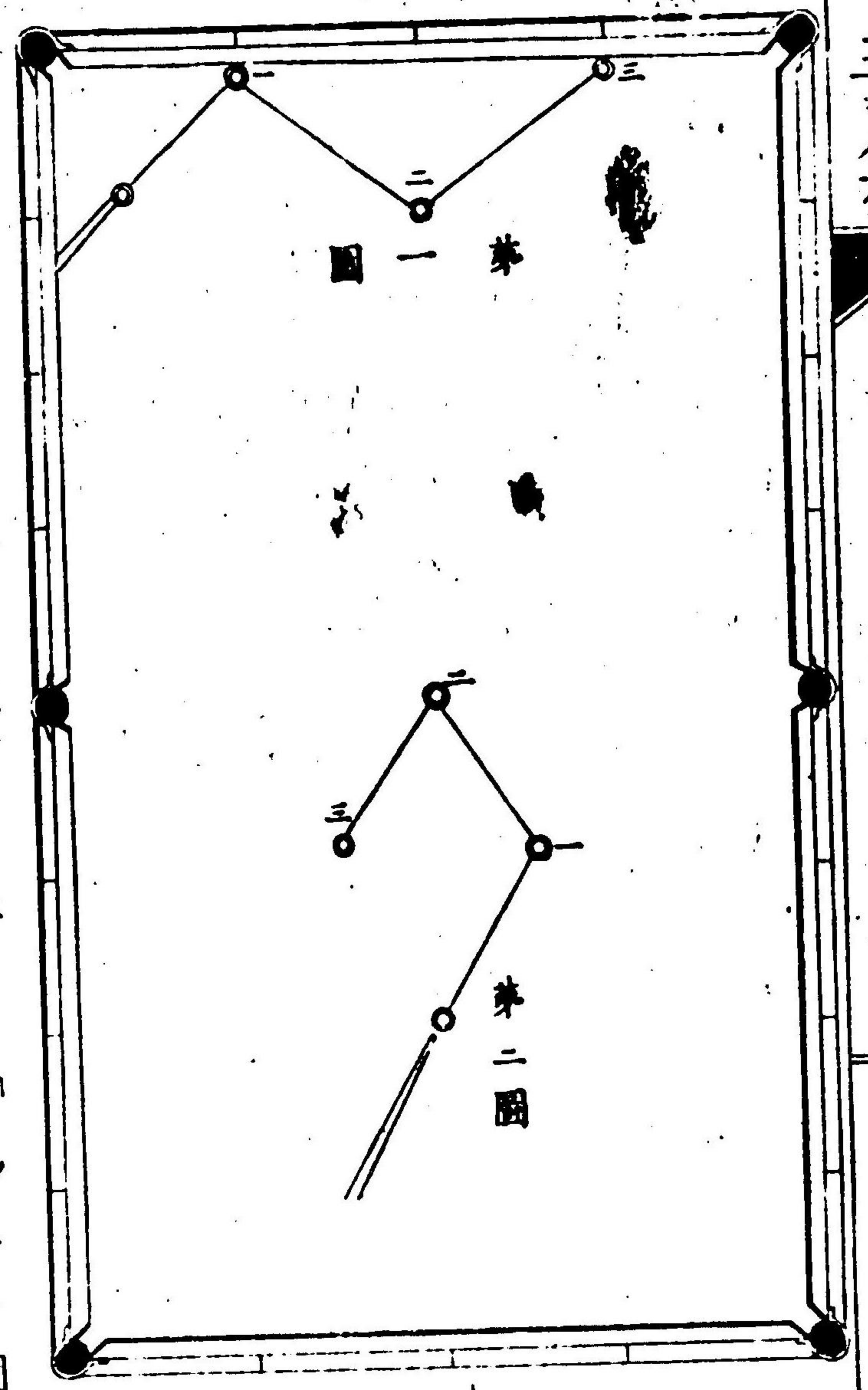
右ノ第一圖中一二及七三ト記スル三箇ノ球ハ共ニ棒
 球ナリ其甲ト記スル球ハ即チ的球ニシテ乙ト記スル
 モノハ之レニカロームヲ行フヘキ球ヲ示スモノナリ

然シテ一二三ト記スル孤線ハ棒球ノ進路ヲ示スモノナリ

一ト記スル棒球ヲ以テ甲ヨリ乙ニカロムヲ行ハン
ト欲セハ二半ノカヲ以テ二分一上ヲ衝突シ的球ノ四
分一右ヲ打衝スヘシ然ルキハ「キツス」ニ因ラ之レヲ行
ヒ得ヘシ又之レト同シカヲ以テ二ト記スル棒球ノ同
シ部所ヲ衝突スルキハ棒球ノ進路ハ少シク異ナリテ
更ラニ圖中ニ示ス如クナルヘシ
三半ノカヲ以テ三ト記スル棒球ノ二分一右二分一上
ヲ衝突シ的球ハ前ト同シ部所ヲ衝突スト雖セ其進路ハ
更ラニ異ニシテ圖中三ト記スル孤線ノ如クナルヘシ

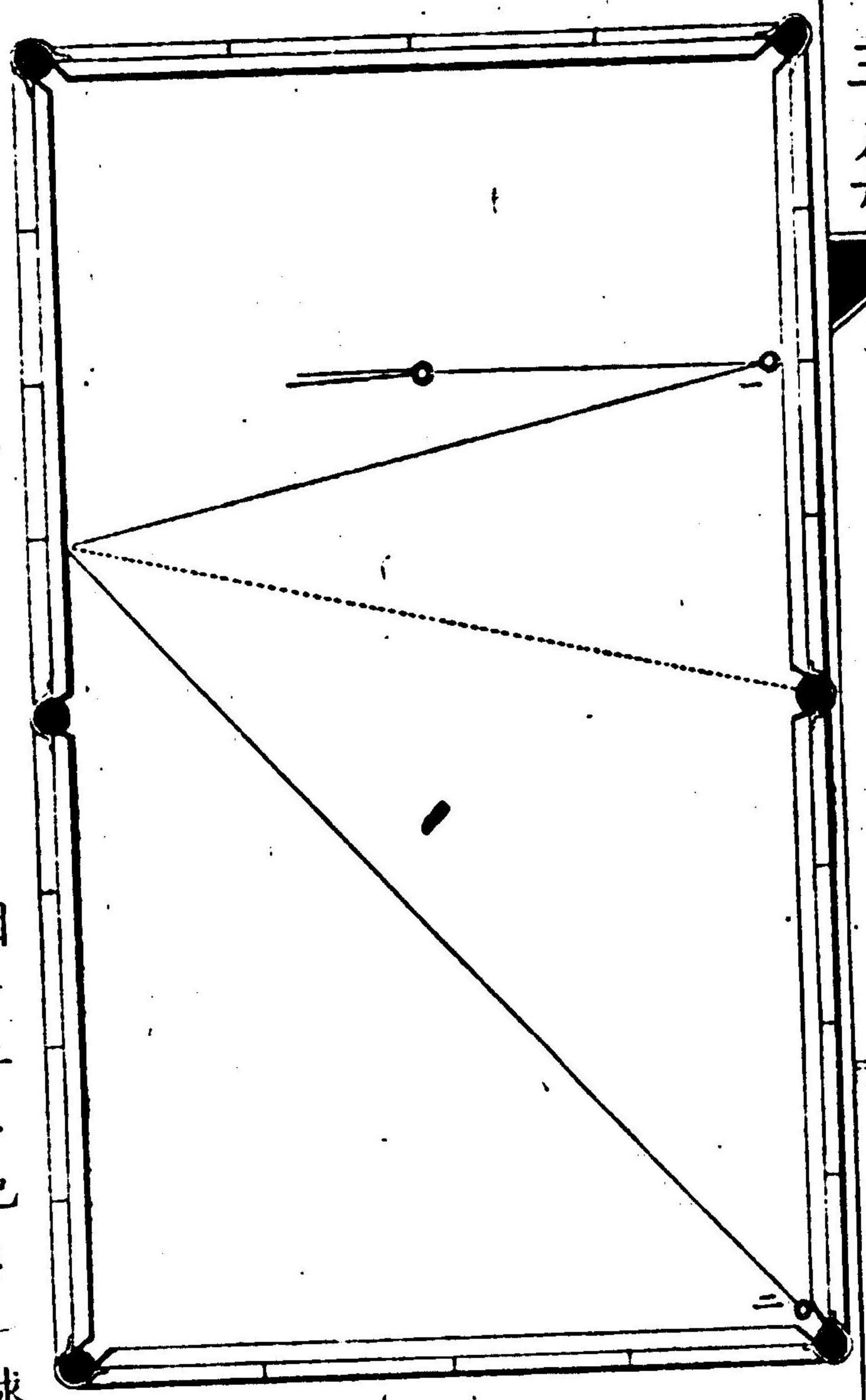
第二圖ノ方法ハ即チ左ノ如シ

丙ト記スル球ヲ的球トナシ丁ト記スル球ニカロムヲ
行フ為ノニハ一ノカヲ以テ四分一左ヲ衝突シ的球ノ
中心ヲ打衝スヘシ又乙ト記スル球ニカロムヲ行フ
為ノニハ二半ノカヲ以テ二分一上ヲ衝突スヘシ而シ
テ的球ハ前ト同シク中心ヲ打衝スヘシ
左ノ圖ハ「キツス」及ヒカ突ノ一法ヲ尚又説明スル為ノ
ニ揭示スルモノナリ



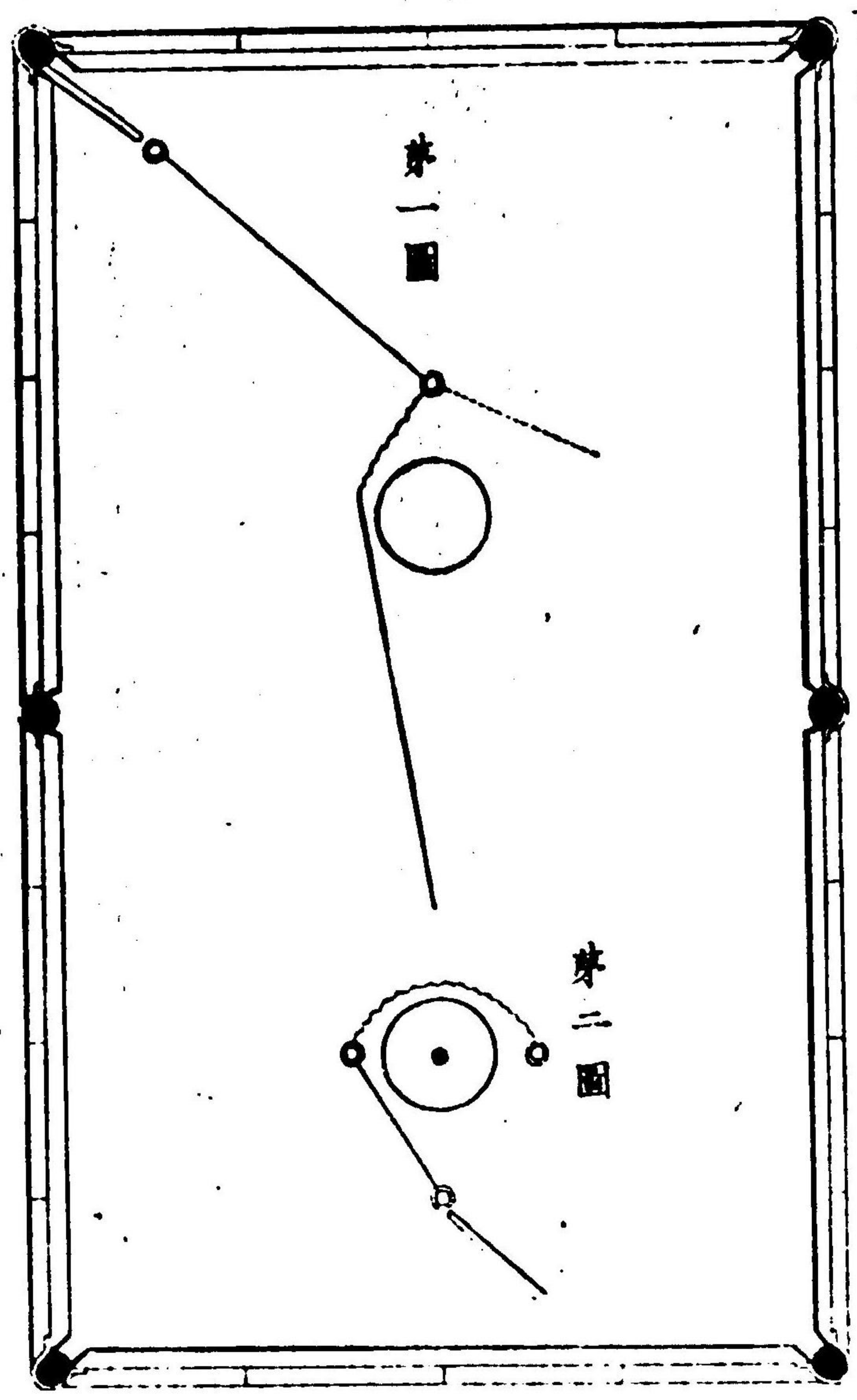
右ノ第一圖ハ一ト記スル球ヲ的球トシ「キッス」ニ因テ
 ニト記スル球ヲ打衝シ又遂ニ三ト記スル球ニモ「カ
 ー」ヲ行フヘシ即チニノカヲ以テ二分一上四分一左

ヲ衝突シ的球ノ二分一右ヲ打衝スヘシ
 其第二圖ハニト記スル球ニ「カロー」ヲ行ヒ且力突ノ
 法ヲ以テ三ト記スル球ニモ亦「カロー」ヲ行フヘシ即
 チ三半ノカヲ以テ二分一下八分一右ヲ衝突シ的球ハ
 左ニ切斷ニ打衝スヘシ
 左ノ圖ハ廻轉突ノ方法ニ因テ棒球カ手前ノ様ニ反突
 シテ右チノ進路及ヒ其做驗ヲ説明スルモノニシテ續
 線ハ棒球ノ進路ヲ示スモノ又飛線ハ廻轉ニ非ラサル
 片棒球ノ進路ヲ示スモノナリ



一ト記スル球ヲ衝突シ「ギッ」スニ因テ二ト記スル球ニ
 ガロ「ム」ヲ行フ為メニハ三半ノカヲ以テ二分一下二
 分一左ヲ衝突シ的球ハ十六分一右ヲ打衝スヘシ

左ノ圖ハ隨行突及ヒカ突ニ由テ弧線ヲ作ル「ノ」方法
 ヲ説明ス



右ノ第一圖ノ圓輪ハ皿或ハ帽子ノ類ニシテ障碍ノ為

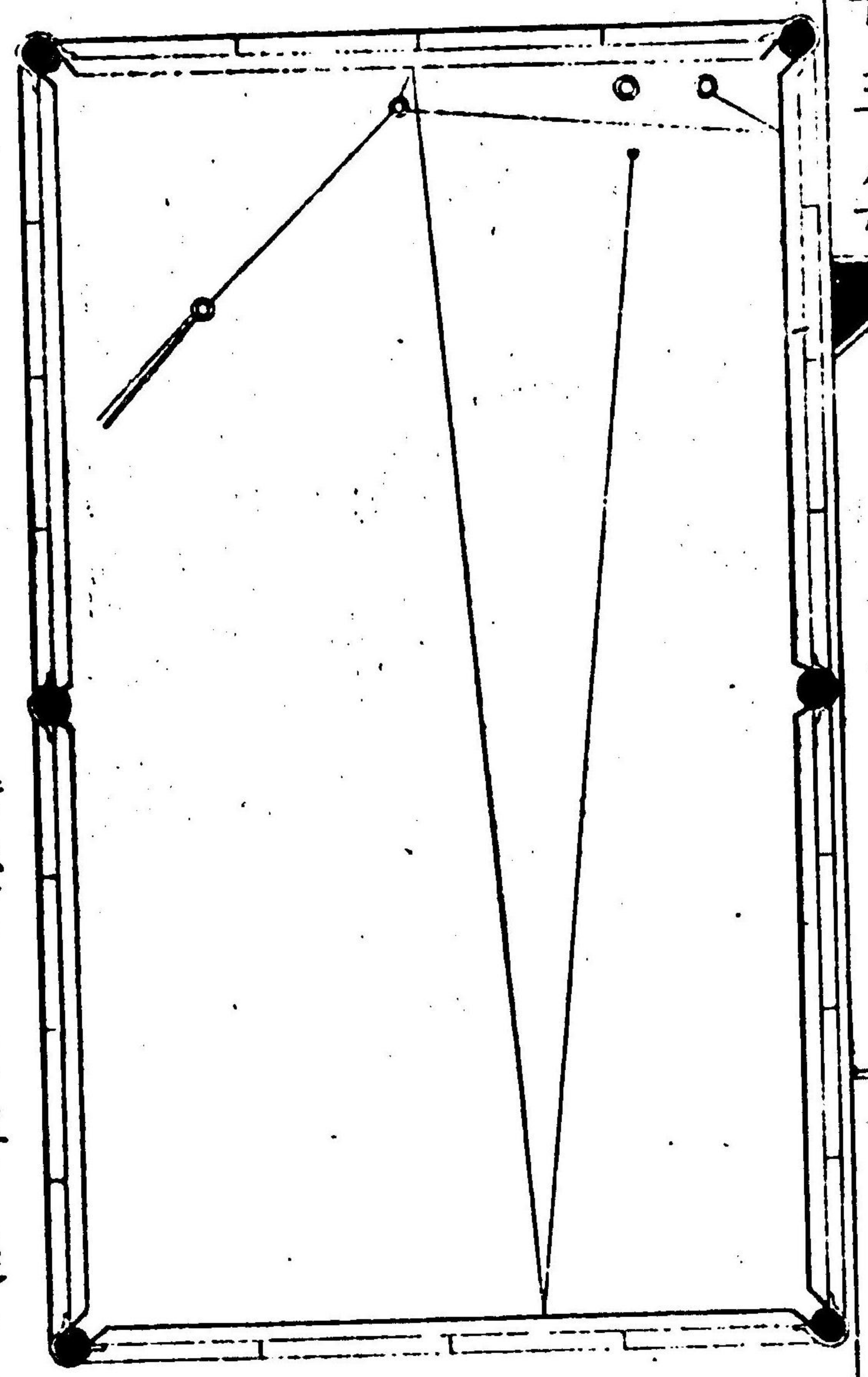
ノニ置クモノナリ今之レヲ避ケテ隨行突ヲ為サント
欲スレハ棒球ヲシテ弧線ヲ畫カシムルヲ要スヘシ其
法即チ三ノカヲ以テ二分一上二分一左ヲ衝突シ的球
ノ二分一右ヲ打衝スヘシ左スレハ棒球ハ的球ニ抵觸
シタル后チ更ラニ弧線ヲ畫シテ進ムヘシ
第二圖モ亦同シ一箇ノ障碍物アルヲ以テ宜シク力突
ノ方法ニ從ヒ棒球ニ弧線ヲ畫カシメ以テ「カロー」ヲ
行フヘシ即チ其法三半ノカヲ以テ二分一下四分一左
ヲ衝突シ的球ハ四分一右ヲ打衝スヘシ而シテ棒球ニ飛
躍ノ運動ヲ與フル為メニ少シ棒ノ手元ヲ斜ニ高ク保
ツヘシ

弄玉集

第三編

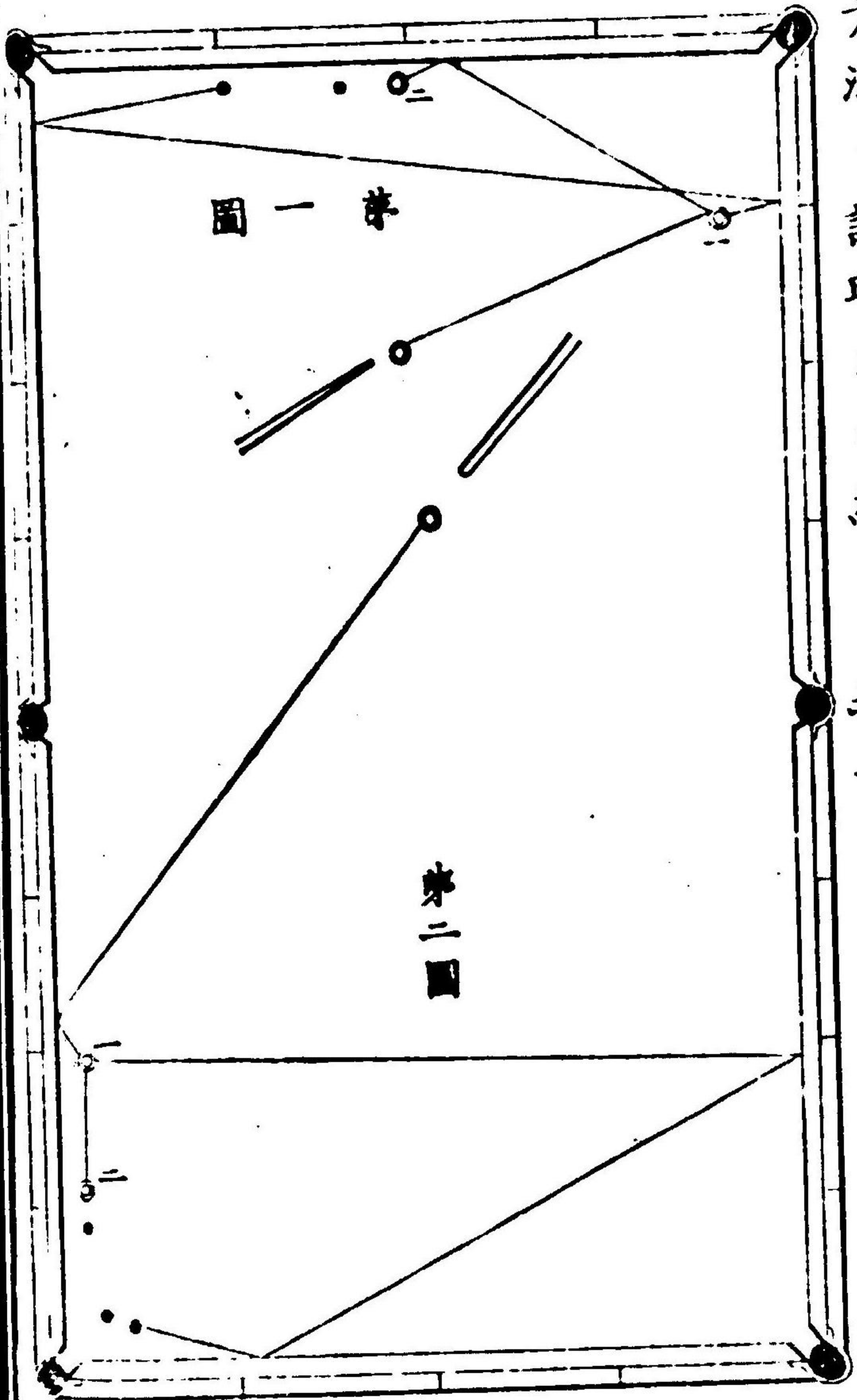
左ノ圖ハ衝突ヲ為シテ后チニ便利ナル「ブリー」クヲ作
ルノ方法ヲ説明スルモノナリ

凡ソ弄玉遊戯ニ於テハ巧ニ衝突レテ目算ヲ逆クルル
 ハ勿論主要トスル所ナレド衝突ノ后チニ技ヲモ便利
 ナル玉位ヲ作りテ以テ數次續テ衝突スルヲ計ル



モ亦最モ必要ナリ故ニ衝突ヲ為スノ際先ツ后チニ成
 リ立ツヘキ玉位ノ如何ニ注意セサルヘカラス實ニ弄
 玉ノ巧拙ハ主トシテ此ノ一点ニ基ツケハナリ此ニ於
 テ殊更ニ之レカ為メニ圖ヲ掲ケテ説明ヲ為スモノナ
 リ
 右ノ圖ノ如キ玉位アリ衝突ノ后チ成ルヘク接近集合
 シテ再ヒ衝突ヲ為ス為メニ便宜ノ玉位ヲ作ラント欲
 セハ須ク左ノ方法ニ從フヘシ
 其法即チ二半ノカヲ以テ四分一下八分ノ三左ヲ衝突
 シ的球ハ圖ノ如キ線上ヲ進行セシムルニ適當ナル部
 所ニ打衝スヘシ左スレハ的球ハ再ヒ他ノ球ノ近所ニ

返動シ来リ次四ノ衝突ニ便利アルヘシ
左ノ圖ニ亦前ト同シク衝突ノ后ヲ便宜ナル玉位ヲ作
ル方法ヲ説明スル為メニ揭示スルモノナリ

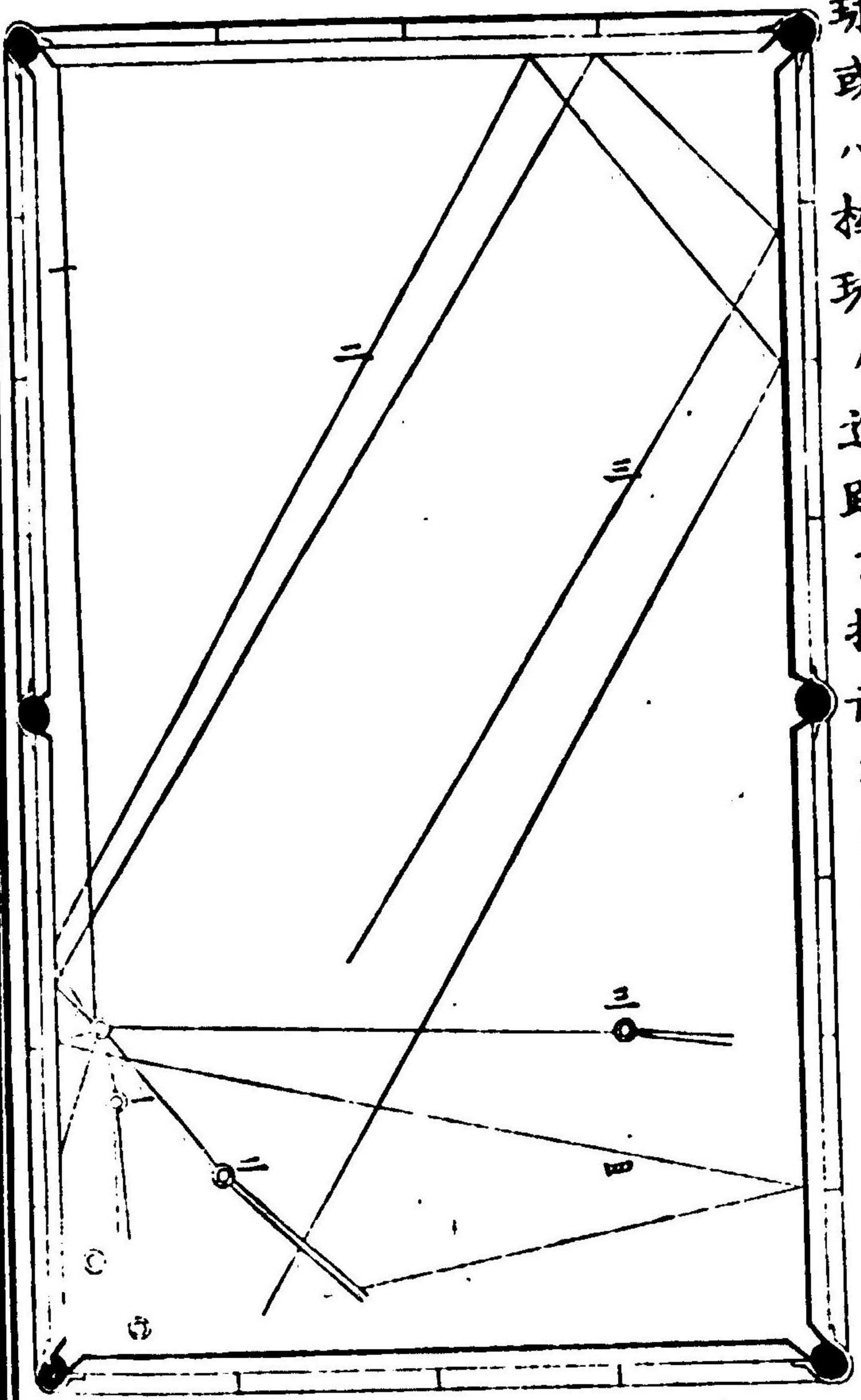


右ノ第一圖ハ一半ノカヲ以テ二分一下二分一左ヲ衝
突シ一ト記スル的球ヲ圖中ニ線ヲ以テ示セル進路ノ
行カシムルニ適當ナル點ヲ打衝スヘシ左スレハ球ハ
皆黒點ヲ示セル位置ニ集リ来リ次回ノ衝突ニ便利ナ
ル玉位ヲ作り得ヘキナリ

第二圖ハ一半ノカヲ以テ二分一左ヲ衝突シ圖中ニ示
セル一點ヲ照準シテ盤縁ヲ打衝スヘシ左スレハ一及
ヒ二ト記スル兩球ニカク一ムヲ行ヒ而シテ后ヲ玉
位ハ黒點ヲ以テ示セル如ク次回ノ為メニ便宜ナル所
ニ集リ来ルヘシ

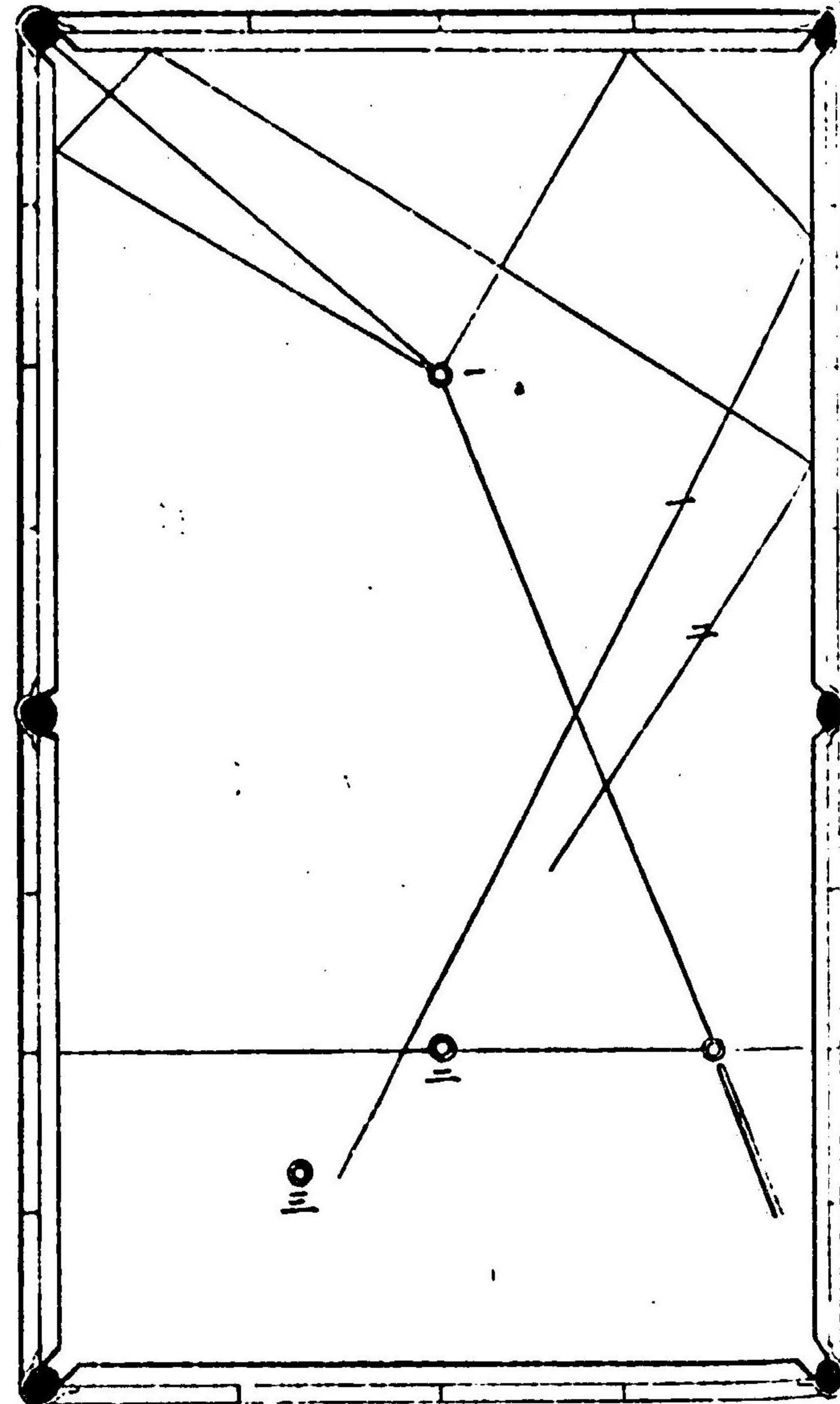
左ノ圖モ亦等シク便宜ナル玉位ヲ作ル為メニ衝突ノ

方法ヲ説明スルモノニシテ一ニ及ヒ三ト記スル球ハ
何レモ棒球ノ位置ヲ示シ一二三及ヒ四ト記スル線ハ
的球或ハ棒球ノ進路ヲ指示スルモノナリ



圖中一ト記スル棒球ヲ衝突セント欲セハ宜シクカ
突ノ法ニ從テ「カロー」ト為スヘシ即チ一半ノカヲ以
テ八分ノ三下四分一左ヲ衝突シ的球ノ畧中心ヲ打衝
スル片ハ的球ハ一ト記スル線上ヲ返轉シ來ルヘシ
二ト記スル棒球ヲ衝突セント欲セハ同シクカ突ノ法
ヲ用ユヘシ即チ三ノカヲ以テ八分ノ三下四分三左ヲ
衝突シ的球ハ畧前ト同點ヲ打衝スヘシ左スレハ的球
ハ二ト記スル線上ヲ返轉シ來テ近ク相集ルヘシ
三ト記スル棒球ヲ衝突セント欲セハ二ノカヲ以テ四
分一右ヲ衝突シ的球ノ八分ノ三右ヲ打衝スヘシ左ス
レハ棒球ハ三ト記スル線上ヲ返轉シ來リ的球ハ四ト

記スル線上ヲ轉動シテ再ヒ相集接スヘシ此ノ如クス
 レハ衝突スル毎ニ便宜ナル「アリ」クヲ作り得ヘシ
 九ノ弄玉遊戯ヲ行ハント欲スルモノハ衝突ノ后チ作
 リ得ヘキ玉位ニ注意シ「ハザ」ル「ド」ヲ行フテ利アルヤ或
 ハ「カ」ロ「ム」ヲ行フテ利アルヤヲ考査シ其利益ノアル
 ヘキ方ヲ撰定スル「最」肝要ナリ因テ左ニ一圖ヲ掲出
 シテ兩方ノ差異ヲ説明セントス



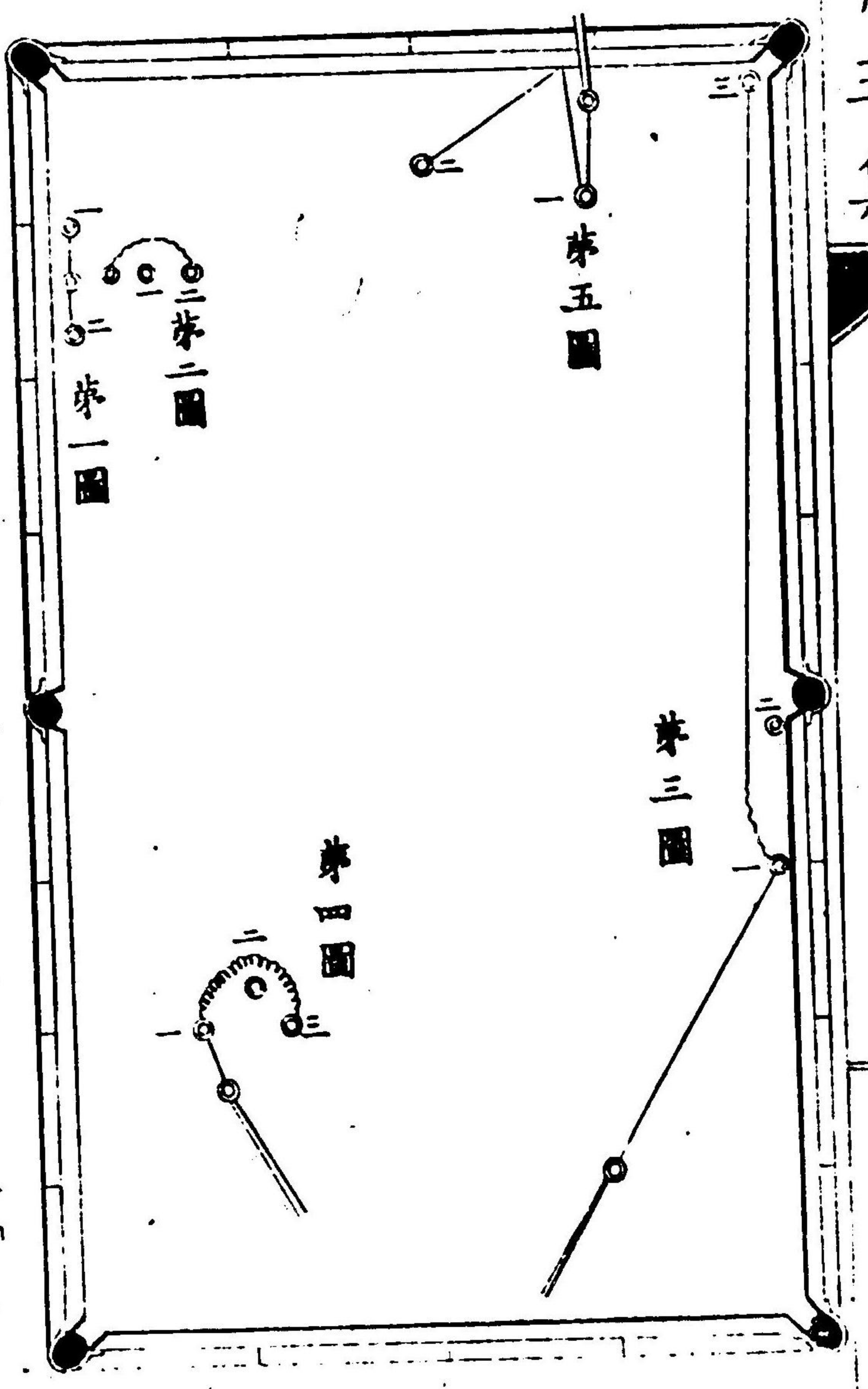
圖ノ如ク尋常ノ「ハザ」ル「ド」ヲ行ヒ次回ニ於テモ亦「ハザ」
 ル「ド」ヲ行ハント欲セハ「棒」球ヲシテ「一」ト記スル線上
 返轉シ来ラ戻リシムルニ適スヘキ衝突ヲ行フヘシ又

「カローム」ヲ行ヒ次回ニ於テモ亦「カローム」ヲ行ハント
 欲セハ球ヲ成ルベク近接集合セシムルヲ要スヘシ
 即チ圖ノ如キ玉位ニ在テハ二半ノカタテ以テ四分ノ一
 上四分ノ一右ニ衝突シ的球ノ八分ノ三左ヲ打衝スヘ
 シ左スレハ圖上ニ指示セル線ノ如クニ運轉シ果シテ
 球々相接シ次回ノ「カローム」ニ便宜ナル玉位ヲ作り出
 スヘシ

以上ニ説明スル衝突ノ方法等ハ都テ尋常普通ノモノ
 ヲ掲載セルモノニシテ弄玉遊戯ノ通則トモ見做スヘ
 キモノナリ而シテ以下ニ掲載セル數様ノ圖ハ熟練技
 師ナル弄玉家ノ行フヘキ特別高尚ナル衝突法ナリ故

ニ初心者ハ斯クノ如キ高尚ナル衝突法ヲ行フテ企
 ツヘカラス佞令ヒ之レ等ノ衝突法ヲ行ハント欲スル
 モ徒ラニ勞苦スルノミニシテ容易ニ仕遂ケ得ヘキニ
 非ラス之レ等ノ法ハ宜シク師トナルヘキ良友ヲ撰ミ
 以テ其教示ヲ仰クヲ可トス然レモ其方法ナキニ非ラ
 サルヲ以テ序ニ揭示スルノミ看官宜シク推知アル

右ノ第一圖ハ中央ノ球ヲ棒球トス而シテ其「カローム」ヲ行フノ方法ハ一ト記スル的球ノ打衝シテ二ト記スル球ニ「カローム」ヲ行ハシテ為ノ「棒」ヲ四十五度ノ傾斜



ニ保チ二ノカヲ以テ豎突ヲ為シ的球ノ中心ヲ打衝スヘシ且棒球ヲ衝突スル片ハ迅速ニ棒ヲ引クヘシ左スレハ棒球ノ運動ハ畧カ突ノ如ク二ト記スル球ニ直返シテ「カローム」ヲ仕遂クヘシ

第二圖ハ一及ヒ二ト記スル球ニ對シテ「カローム」ヲ行フノ方法ニシテ二半ノカヲ以テ棒球ヲ八分一右ニ衝突シ棒ハ畧前ト同シ傾斜ニ保ツヘシ又照準點ハ弧線ノ初發ノ方向ヲ狙フヘシ此ノ如キ衝突法ハ佛人ノ最モ長スル所ナリ如何トナレハ佛式ノ弄玉遊戯ニ於テハ「バザルド」ナルモノナク常ニ「カローム」ノミナルヲ以テ大概皆此等ノ衝突法ニ熟セリ且此衝突法ニ在テハ

首腕ノ運動殊ニ迅速活發ナルヲ要ス

第三圖ハ一ト記スル球ヲ打衝シ弧線ヲ畫シテ二ト記スル球ノ傍ヲ通過シ三ト記スル球ニ「カローム」ヲ行フノ方法ナリ即チ三半ノカヲ以テ二分一上四分一右ヲ衝突シ的球ノ十六分一右ヲ打衝スヘシ

第四圖ハ一ト記スル球ヲ打衝シ二ト記スル球ノ外側ヲ廻リ弧線ヲ畫シ来リテ三ト記スル球ニ「カローム」ヲ行フノ方法ナリ即チ三半ノカヲ以テ二分一下四分一左ヲ衝突シ棒ヲ三十度以上ノ傾斜ニ保ツヘシ此ノ如クスル片ハ堅突及ヒ飛突ノ二者ヲ一踏ニ施行スルモノニシテ各般ノ理由ニ從テ二ト記スル球ノ上外傍ヲ

廻リ弧線ヲ畫シテ三ト記スル球ニ抵觸シ「カローム」ヲ仕遂ケ得ヘシ

其第五圖ハ力突ノ方法ヲ以テ一ト記スル球ヲ打衝シ手前ノ盤様ニ抵觸シテ後チ廻轉突ノ理ニ從テ二ト記スル球ニ「カローム」ヲ行フノ方法ナリ即チ三半ノカヲ以テ二分一下二分一左ヲ衝突シ的球ハ中心ヲ打衝スヘシ

弄玉集於

明治十二年六月七日版權免許
明治十二年六月出版

定價金貳拾錢

東京京橋區元數寄屋町三丁目四番地

出版所 内外兵事新聞局

東京日本橋通三丁目

發兌 全 稻田佐兵衛

全南傳馬町三丁目 小林新兵衛

大坂心齋橋通糸長町 小林新造

全心齋橋通唐土町 柳原喜兵衛

淺井吉兵衛

書肆

11
196



075803-000-1

4-196

弄玉集

宇津木 信夫/訳

M12

CEM-0777

